



第 98 号

公益財団法人 黒田奨学会

総裁 黒田長高様 近況報告

「藩校サミットと御着」

総 裁 黒 田 長 高



令和6年は私にとって比較のおとなしくしていた年でありました。昨年もそうでしたが毎年恒例であった「どんたく祭」の参加が諸般の事情でなくなっているのです。ゴールデンウィークは東京でのんびり過ごすことができました。毎年2月の忠之公法要、3月の如水公法要、そして当奨学会の入学式・卒業式と訪福が始まるのですが5月のどんたくの為の訪福がないと少し気が抜けたような感じがします。

昨秋には、毎年参加している全国藩校サミット出席のため、何と盛岡へ行くことになりました。この藩校サミットが東北地方で開催されたのは初めてではないかと思います。私も盛岡へ行くのは初めてでしたが、何と東京から3時間で到着してしまうことには感心致します。

前回の藩校サミット東京大会で、30年以上前に仕事で知り合った盛岡出身の方に偶然会い、その方に今回の盛岡大会の翌日に市内を案内して頂けることになっていました。

さて、第21回目の藩校サミットには44藩の旧藩主子孫の方等が参加され、歴史コメンテーターによる記念講演、将軍と殿さまの座談会、出席旧藩主紹介、盛岡宣言発表等があり、その後場所を変えて参加者お楽しみの交流会が盛大に始まり、皆さんそれぞれ料理等を楽しんだようでした。この交流会でも違う大会の時にやはり何年も前に偶然に別の仕事で知り合った方と再度お会いすることができました。そして交流会は宴たけなわのうちに、最後の次回開催地、福岡県朝倉市の紹介で閉会となりました。

盛岡で私が一番興味があったのは第2代藩主黒田忠之公の「黒田騒動」で一躍有名になった家臣「栗山大膳」の墓で、一度はお参りしたいと思っておりました。また黒田騒動のために盛岡の南部藩へお預けとなった際に持参したといわれる黒田如水の「合子形兜」が「もりおか歴史文化館」にあるというのでぜひ拝見したいと考えていて、さらに盛岡の名物といわれる「わんこそば」にも挑戦したいと思っておりました。

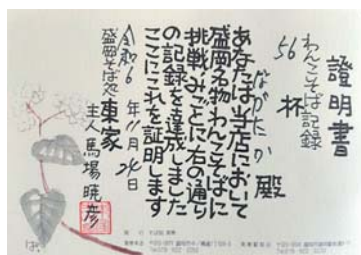


藩校サミット



藩校サミット次回開催地からの挨拶

翌日は、知人の案内で、「栗山大膳」の墓と位牌のある恩流寺に参拝し、「わんこそば」の挑戦に市内へ向かい、同行者三人と共に「わんこそば」を頂きました。私は56杯でしたが同行の男性は私より10杯以上は平らげていたようです。（ただ、数をこ



わんこそば証明書



盛岡 岩手銀行赤レンガ館



栗山大膳位牌

なすには同行者の数等も関係があると思われます。) 其後は市内観光に向かい、岩手銀行赤レンガ館、石川啄木・宮沢賢治青春館などを観て歴史文化館へ向かったのですが残念ながら「合子形兜」の実物の展示は期間限定とのことでレプリカが展示されておりました。

さて今年に入り、私は例年通り、2月の忠之公の法要、翌月3月に如水公の法要と黒田奨学会の入学式・卒業式出席の為に訪福しましたが、奨学生の皆さんの希望に満ちた顔を拝見し、彼らの今後の活躍に期待を抱いて帰京致しました。

その後例年通り4月29日には御着に向かい、小寺大明神社・黒田家廟所の法要に参列しました。いつもはこの法要の際は黒田家からは私だけで小寺家・天川家関係の方がほとんどですが、今回は「播磨の黒田武士顕彰会」の新会長の林氏が参加されております。今年は選挙などがあるせいか市議会議員から国会議員の方まで多く参列しているのには驚きました。廟所に祀られているのは官兵衛の祖父「重隆公」とご母堂の五輪塔。姫路市の文化財となっているので、毎年この法要には姫路市長が駆けつけて頂けるのですが今年は副市長の出席でした。

黒田家廟所は年数がたっているので入口の門のあちこちから不具合が生じているようですが、御着史跡保存会のご尽力により市の協力を得て修復されているそうで、市の文化財とはいえ本当に有り難いことだと思っています。主催者の「御着史跡保存会」は何と今年51周年を迎え、また大河ドラマ以前より始まっている地元の小学生によるボランティアガイドも14年を超えるそうで御着の皆さんのこの地を愛する心意気には頭が下がります。子供たちも御着のことはもちろん黒田官兵衛に愛着を感じているのではないのでしょうか。子供のころから郷土の著名人のことを知っておくのは大事なことだと思います。また今年も昨年と同様に地元の中学校の音楽部による琴の演奏があり、地元の小・中学校の子供たちの故郷の「御着」という地を大事にして忘れないでほしいという思いが伝わるようです。

ところで本年は当黒田奨学会も創立110周年をむかえるということですが、理事長も交代し、また新しい一歩を踏み始めております。この10年の間には奨学会にとっては大きな変化がありました。まず、事務所の移転と奨学会の財源である「浜の町別邸跡」の有効利用です。特に土地の有効利用については以前の駐車場という形ではなく定期借地という形で近代的な素晴らしい建物が建築されております。また事務所がそのすぐそばに移転できたことは幸いなことです。ここまで来るのに理事長はじめ関係者の皆様のご苦勞も想像つかないものと思い感謝の気持ちでいっぱいです。

私も年を重ねてまいりましたが、まだまだ元気に過ごしており、加齢に負けぬよう週に何回かはジムに通ったりそれなりに体には充分に気を付けているつもりです。瑞藤会の皆様も健康管理には充分気を付けて頂き、これからも元気なお顔を拝見できる日を楽しみにしております。



御着黒田家墓所



御着の中学生による琴

目 次

総裁 黒田長高様 近況報告 「藩校サミットと御着」

総 裁 黒田 長高

黒田奨学会 OB 通信

「ソーシャルビジネスで変える世界」

レオス・キャピタルワークス株式会社 株式戦略部
アナリスト・ファンドマネージャー

松本 凌佳 …… 1

修了および卒業に際しての謝辞

博士・修士課程修了生より …………… 6

学士課程卒業および修士課程入学生より …………… 9

新奨学生より …………… 15

トピックス

九州大学大学院の横山健さん、東京大学大学院の松田仁さんが、
研究会発表で優秀賞を受賞！！ …………… 33

行事報告

令和6年度 奨学生卒業記念会・瑞藤会総会 …………… 34

令和7年度 奨学生入会式 …………… 35

令和7年度 新奨学生 …………… 36

令和7年度 博士・修士課程修了生および学士課程卒業生 …………… 36

令和6年度 九州地区研修会 後期第2回 …………… 38

令和6年度 関東地区研修会 …………… 41

公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼 …………… 45

令和6年度奨学会基金への寄贈者 …………… 45

令和7年度 黒田奨学会行事予定 …………… 46

編集後記 …………… 47

「ソーシャルビジネスで変える世界」

レオス・キャピタルワークス株式会社 株式戦略部
アナリスト・ファンドマネージャー
松本 凌佳

皆様はじめまして、松本凌佳と申します。私自身は、2010年から2022年の4年間、黒田奨学会のお世話になっていました。大学卒業後、新卒でレオス・キャピタルワークスという運用会社に就職し、今年で社会人4年目になります。

今の私の業務内容は、公募投信のファンドマネージャーになります。個人のお客様から、幅広くお金をお預かりして株式に投資をして、増やしてお返りする。そんな仕事をしています。あまり身近な仕事では無いので、もう少し詳しく説明させてください。

新NISAが始まり、ネット証券の口座数も急速に拡大しています。自分の資産を預貯金ではなく、金融商品で運用する人々が増加しているということです。どんな商品に人々は投資しているのか、多くの証券会社のランキングページを見たときに上位にランクインしている商品がS&P、TOPIXといった市場全体の平均的な値動きに連動した運用を行うインデックス運用商品になります。こういった商品は、公募投信と呼ばれる一般の投資家に広く販売される投資信託の一形態です。小額からでも、幅広い資産に分散投資ができる非常に便利な商品です。ですが、一般的な運用会社のビジネスと言うのは、実はこういったインデックス商品では構成されていません。企業に対して深い調査を行うファンドマネージャーが運用するファンドを投資として販売することで、インデックス運用を行う投資商品よりも高い手数料をもらう、こういったビジネスで構成されています。

こういったファンドマネージャーの運用はアクティブ運用と言われていて、企業の財務内容、成長性、市場動向を独自に分析し、市場平均を上回る成績を目指す運用手法になります。投資家の洞察力や運用力が問われ、優れた企業を選別したり、市場が過小評価している銘柄を見つけたりすることで、手数料を上回る超過収益を狙うという金融商品になります。

実際ファンドマネージャーとして、私も日々膨大な情報を収集しており、株式の需給、世界情勢、金利動向、コモディティの動き、企業の業績や成長性を示す財務指標（ROE・利益率等）に加え、競争力、市場シェア、経営陣の能力やESG要素（環境・社会・ガバナンス）を分析しながら長期的な企業価値向上が期待できる銘柄を発掘したり、ポートフォリオ全体のリスクを考慮しながら投資の配分の調整を行ったりしています。

私が運用しているファンドは比較的新しいファンドで、上場企業だけでなく、未上場企業にも投資をしている公募投信です。上場を目指している未上場スタートアップの中でも特に成熟している企業、そして成長性の高い新興上場企業を主な投資対象とした投資信託を運用しています。

今日『ソーシャルビジネスで変える世界』と題して、皆さんにお話できればと思っているのは、そういった私が普段見ている魅力的な企業の数々が、この社会にとってどのような意味のある事業をしていて、どうやって仲間とお金を集めて成長し、社会に大きな影響を及ぼす企業になったのかという話です。そういったチャレンジを皆さんが行っていく上で少しでも方向性が見えるきっかけになればと思っています。

まずは、簡単にESG投資について触れることができればと思っています。とても簡単に言うと、社



会に対して良いことを行っている企業群を応援するお金・投資の総称ですね。もう少ししっかり説明するのであればESG投資とは環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の3つの非財務的観点から投資評価に組み込んだ投資を指します。

投資に向けた意思決定プロセスや株式の保有方針の決定に、投資先企業の財務状況に加えESGの各要素を反映させることを織り込んだPRI(責任投資原則)というものがあり、多くの機関投資家、たくさんのお金を預かって運用している投資家はこれを遵守することを掲げています。

ESG投資においては、まずネガティブスクリーニングという手法が有名で、ESG観点から問題のある特定業種（タバコ、武器製造、石炭火力発電など）を除外する手法が一般的です。他にはポジティブスクリーニングを用いてESG評価が高く、持続可能性や成長性に優れた企業を積極的に選定したり、投資後もエンゲージメント（対話）や議決権行使を通じて企業のESG改善を促すという取り組みをしたりしています。

ただ、残念ながらESGという投資戦略は万能ではありませんでした。特定のセクターを除外したり、ESG評価が高い企業に集中して投資をすることで必ずしも高いリターンを獲得できるわけではなかったのです。

例えば、ESGの観点から軍需銘柄を組み入れることができないファンドでは三菱重工業に投資することはできませんでした。この企業は時価総額10兆円を超えるほどの規模の企業ですが、実は過去5年のリターンを見ると、地政学的リスクの高まりによる防衛費の増額によって企業価値が高まり、大型株の中でもトップクラスの株価パフォーマンスを見せています。

たばこ銘柄に投資することが難しいというファンドも多数ありますが、JTが放漫経営のひどい会社かという、全くそんな事はありません。非常に筋肉質な組織が作られており、経営陣も極めて優秀です。例えば採用一つとっても年間数百名の採用をJTはしていますが、一部幹部候補の採用を別枠で行っています。この幹部候補として採用された社員はグローバルのJTの拠点で通常の新卒社員とは全く異なる質の経験を積み、将来のJTの経営人材となるべく英才教育を受けます。

こういった人間でJTの経営幹部は構成されているため、彼らの経営能力は素晴らしく、例えばM&A一つとっても、ギャラハーという日本企業のM&Aの中でも、最大級の買収を成し遂げています。それができたのは彼らの元には優秀な人材が揃っており、緻密な計画に基づいてM&Aが実行されたためです。買収にあたって、買収のシナジーを検証した定量分析が数センチ積み上がるほどであったと言われていました。これだけの分析ができる組織が社内に作られているのです。

このようにネガティブスクリーニングに限界がある一方でポジティブスクリーニングにも限界がありました。多くの企業が見た目のESG評価が高くなるような小手先の開示を行うようになりました。事業実態やサプライチェーンは何も変わっていないのにESG評価が2_3年で大きく改善している事例が目立つようになり、逆にしっかりと取り組んでいるものの開示が充実していない会社の評価が下がることもありました。投資家がESG評価を行うフレームワークが企業側にも知られた結果、ESG評価指標が機能しなくなってしまったのです。

このようなことがおきた結果として、2022年以降、ESG投資によってリターンが生まれるのかが疑問視されるようになり、投資大国である米国のESG投資額は大幅に減少する結果となりました。2022年の世界全体のESG投資額は2020年比で14%減の30.3兆ドル(※2022、GSIA報告を参照)となり、特に米国では調査手法の厳格化により、投資額が半減する結果となりました。またESG関連ファンドからの資金流出が続いており、米国のESG投資環境には逆風が吹いています。

逆風を受けているのは日本のスタートアップも同様です。日本でESGを謳いながら資金調達を行っていた企業にはESGファンドから資金が流入していましたが、その波がぱったりと止まりつつあります。莫大な資金調達を行っていたスタートアップが資金調達できなくなり、倒産秒読みという話もちらほら聞かれるようになってきました。

長くなりましたが、ここで伝えたいことは、社会をより良くするためという志だけでお金が集まる時代が終わってしまったということです。

では社会をより良くするような企業を作ること、起業していくことはもうできないのかと言われるとそうではないと私は考えています。また、高齢化社会への対応、医療の地域格差、気候変動、資源枯渇、廃棄物処理などなど私達が直面している問題は日々大きくなり続けており、このような問題の解決への挑戦の必要性はむしろ増しています。また、これまでよりも大きなお金がこういった問題の解決にも必要になってくるでしょう。厳しい環境の中でも、起業家側はより多くの資金を調達できるような、魅力的なビジネスを構築し、投資家側もリターンを目線を下げてでも、社会課題の解決に資金を投じていくことが求められています。

皆さんに今日お伝えしたい概念がソーシャルビジネスになります。ソーシャルビジネスとは社会的な課題を解決することを目的としたビジネスです。先程挙げたような問題を解決するために、ビジネスの力を使って社会課題を解決するフレームワークを企業がどう使っているのか、ここから紹介していきます。

まずは、バングラデシュのマイクロファイナンス、グラミン銀行が挙げられます。2006年にノーベル平和賞を受賞したバングラデシュの経済学者のモハメド・ユヌス氏が創設者として知られている、貧困層が一般の金融機関から融資を受けにくいという社会課題に着目し、小口貸付（マイクロクレジット）を提供することで貧困脱却を目指したビジネスです。貧困層向けの比較的低利子の無担保小口融資を行う企業になります。グラミン銀行の特徴的な点は、連帯保証制度を採用していることです。借り手は5人程度のグループを形成し、お互いが返済の責任を負うことで、返済率の向上を実現しています。また、融資対象の約97%が女性であり、女性の経済的自立と地位向上にも貢献しています。融資を受けた人々は小規模ビジネスを始め、収入を増やし、子どもの教育や生活環境の改善に投資することで、貧困の連鎖を断ち切る効果をもたらしています。

五常・アンド・カンパニーという会社も非常に面白い挑戦をしています。日本発のマイクロファイナンス事業を行う企業。インドや東南アジア、アフリカなどで資金アクセスが限られた人々に小口融資を提供。マイクロファイナンス機関を創業、あるいは現地のマイクロファイナンス機関を傘下に収めたり出資したりしながら、全世界的に事業を展開しています。

Duolingoも興味深いです。「質の高い教育は高額である」という課題を解消し、誰でも気軽に語学学習を始められる環境を構築。ゲーミフィケーションを取り入れた学習システムによって、ユーザーはゲーム感覚で学習を継続しやすく、世界中の人々が複数言語を習得できる機会を得ている。語学教育へのアクセス格差を低減しています。

医療・福祉領域ではユカリヤという会社に注目しています。複数の事業を展開している同社ですが、病院経営サポート事業が特に有名です。赤字が続き倒産しかかっている病院に対して看護師・医師経験者を軸としたサポートチームが戦略立案・資金調達・共同購買・地域連携・人材確保・建替え対応など、あらゆるサポート機能を提供し、黒字化を実現することで、持続可能な地域医療の実現に貢献しています。

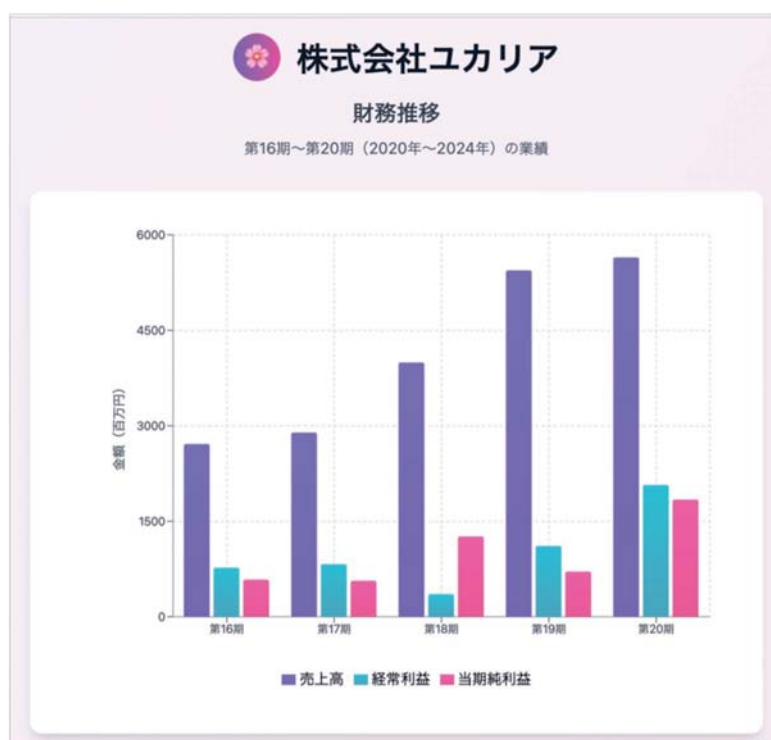
ではこれらのソーシャルビジネス、社会課題解決型のビジネスを営利企業を分析する際のフレームワークで見てみるとどうなるのでしょうか？

グラミン銀行の功績としてまず挙げられるのはマイクロファイナンスというビジネスモデルを確立したことであると言えるでしょう。無担保の小口融資を持続可能な形で成立させる座組を構築したほか、株主が利用者と政府で構成されており、マイクロファイナンスの収益を教育や医療などの社会支援プログラムに転用する社会的企業モデルを確立したことも重要な功績です。この仕組みにより、利益の最大化ではなく社会的インパクトの最大化を目指しながらも、持続可能な事業運営を実現しています。

五常・アンド・カンパニーはマイクロファイナンスとロールアップの組み合わせと見ることでいいでしょう。ロールアップは連続的に企業買収を行うことで企業価値を高めていくビジネスモデルです。

DanaherやIndutradeなど、グローバルの先進事例を参考に日本でも事業承継ニーズに応える企業買収を成長戦略の中核に据えるという会社が増えてきています。グローバルに見ても極めて優秀な組織を構築しなければ長期的に事業を成長させることは難しいため、投資家の目線は厳しくなりがちですが、成功できると本当に素晴らしい結果につながるようなチャレンジをされていると思います。

Duolingoはアプリとゲーミフィケーションとフリーミアムモデルの組み合わせで評価できます。アプリやウェブサイト上で無料で学習できる仕組みを提供し、広告収入や一部有料オプション（広告非表示、オフライン学習など）で運営費をまかなう「フリーミアムモデル」は、n日継続率や課金転換率など一定の指標をクリアできれば、投資家としても他のアプリと同様に評価して投資することが可能です。逆に言えばこれらの指標が一定の水準を超えるまでプロダクトを磨き上げることが極めて難しく、それを成し遂げ、多額の資金を調達・投資し、グローバルにユーザーを獲得しながら、足元ではとうとう利益を出し始めている同社は本当にすごいです。



ユカリアはリースビジネスとコンサルティングの組み合わせです。ユカリアは実は倒産寸前の病院の土地と建物を買って、病院の業務改善の投資資金を確保してあげることからビジネスをスタートします。病院の経営改革コンサルティングを進めながら、買い取った土地建物から生じる家賃収入がユカリアの売上として入ってくるモデルになっています。

コンサルティングビジネスはバランスシートを使わないモデル、純粋に人の人数と単価で売上・利益が決まることが多いです。一方、ユカリアはコンサルティングだけではITコンサルなどと比較して収益性に劣るわけですが、バランスシートを使ったリースビジネスを並行して行うことで他のコンサルティング企業と比較しても遜色ない収益性を実現しながら成長を実現しています。

このように、成功している、規模を拡大しているソーシャルビジネスの多くは儲かることが証明されたビジネスモデルを利用して、ビジネスの座組を作ることで、資本市場の力を使って成長しています

。経営者がビジネスモデルを理解していれば、投資家とコミュニケーションが取れます。投資家もビジネスモデルの組み合わせで理解できる企業には高い株価をつけられるので、成長ストーリーを信じられれば多額の資金を投資できます。資金が十分に調達できて初めて、開発・採用・設備投資などを実行し事業規模を拡大していくことができるということになります。

また、ビジネスモデルがあれば優秀な仲間が集められます。高い志を持ち、成長性のある企業には優秀な人材が自然と集まってきます。明確なビジネスモデルがあることで、将来の成功を具体的なインセンティブとして提示でき、チャレンジ精神や情熱を兼ね備えた人材の獲得につながるのです。

最後にまとめますと、ESG自体が評価される時代は終わり、今は事業性が厳しく問われる世界になっています。社会課題を解決するソーシャルビジネスを拡大していくためには、持続可能で収益性のあるビジネスモデルが不可欠です。本日も様々なソーシャルビジネスを紹介しましたが、抜群の成長を成し遂げて上場するような企業は既存のビジネスモデルを巧みに組み合わせることで資本市場からの支持を得ています。起業を志す皆さんには、是非ビジネスモデルについての勉強にも関心を持っていただきたいです。世のため人のために何かを成そうという志とビジネスモデルが噛み合うことによって初めて、投資家からの資金調達や優秀な人材の獲得が可能となり、社会課題の解決と事業の成長を両立させることができると考えています。皆様の今後のチャレンジとその成功を心から応援しています。

(令和7年3月20日、瑞藤会記念講演会より)

修了および卒業に際しての謝辞

【博士・修士課程修了生より】



京都大学大学院文学研究科修士課程修了 小河 義典

この度、京都大学大学院文学研究科の修士課程を修了いたしました小河義典と申します。黒田長高様をはじめ、奨学会の皆さまには日頃より多大なるご支援を賜り、感謝いたしております。特に大学院の2年目には休学を認めていただき、念願のイタリア留学を果たすことができました。コロナ禍で叶わなかった夢が実現したことは、大変嬉しかったです。

さて、今回謝辞を書くにあたり、学部を卒業した頃、3年前の私が謝辞として書いたことを振り返ってみました。そこでは次のように述べています。

「私はイタリア文学とオペラの研究をしています。いわゆる人文科学に含まれる領域です。奨学会では「社会貢献」について考える機会がたくさんありますが、人文科学はそこから最も遠い学問であるように思われます。・・・しかし、なんでもAIがこなしてしまう今だからこそ、人の営みを研究する人文科学は非常に重要な役割を担っているとも考えていますし、その意義を感じて研究活動に没頭することができています。」

これは今も私の中で変わることないテーマです。更に思い返せば奨学会に応募した際にも、AIの普及の一方で、人間がやることの意義はどこにあるのか、文化こそがその答えの一つではないのかと述べた記憶があります。それから7年、目覚ましい発展を遂げるAIの陰で、文化芸術分野は苦境にあり続けています。

文化や芸術に対する気持ちを持ち続けながら送った7年間の学生生活は私にとって大きな財産となりました。サークル活動ではオーケストラに没頭し、日本各地で演奏活動を行いました。大好きなオペラにまつわる研究もできました。京都の歴史あるお店でアルバイトをすると、そこで出会った方に伝統芸能を教えてもらったり、地域のお祭りに参加させてもらったり。もちろんイタリア留学も忘れられません。アルバイトの傍らで毎週一度はスカラ座へ行き、立ち見席で観劇しております。京都、ミラノという文化の豊かな街で過ごせたことも今の私に大きな影響を与えています。

さて、私は4月より松竹株式会社に勤めております。おかげさまで、これからも文化や芸術への思いを強く持ったまま過ごすことになりそうです。黒田奨学会の奨学生として学生生活を送ったことを誇りに思い、また感謝の気持ちを忘れることなく、文化・芸術の発展に身を尽くして参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京農工大学大学院工学府修了 朽網 桃香

このたび、東京農工大学大学院を卒業しました、朽網桃香です。高専から大学へ3年次編入をし、学部、そして修士課程と4年間、講義や研究、就職活動に集中して取り組むことができました。このように実りある学生生活を送ることができたのは、ひとえに奨学会の皆さまの支えがあったからこそです。改めて、心より感謝申し上げます。4年間、本当にありがとうございました。

4月からは薬や医療機器の臨床開発に携わる仕事を行います。まだ承認を受けていない医薬品・医療機器の臨床試験において、患者さんの人権と安全に配慮しつつ、データの信頼性を担保する、それが私の役割です。

この原稿を書いている今、すでに勤務が始まり、座学研修のまっただ中。毎日6時間、法令や省令に関する講義を受け、毎日小テスト。筆記テストや口頭テストなど、あと1ヶ月間このスタイルが続く予

定です。久しぶりに机に向かい詰める日々が続いて、まるで大学生に戻ったような気分になりますが、「知っているつもり」では済まされない責任の重さを感じる中で、社会人として新たに学ぶ意義を実感する毎日でもあります。

このように、自分の進みたいと願った道を歩むことができたことも、進む道を決めることができたことも、奨学会の存在があったからこそです。経済的な支援はもちろんのこと、これまでに開催していただいた式典や研修会、関東地区の懇親会に参加するたびに、多くの刺激を受けてきました。自分の道を自分で考えて進もうとしている奨学生の姿は自分を奮い立たせてくれる存在でしたし、これまでの道を築いてこられたOB・OGの方々のお話には人生観や考え方を深めるヒントがたくさんありました。奨学生であったからこそ出会えた方々や、奨学生としての自覚が、今の自分の土台を作ってくれたのだと思います。これからは、いただいたご恩を少しずつ社会に還元していけるよう、励んでまいります。

改めて、この4年間支えてくださった奨学会の皆様に、心より御礼申し上げます。

九州大学大学院システム情報科学府電気電子工学専攻修士課程修了 山田 健太

この度、九州大学大学院システム情報科学府電気電子工学専攻の修士課程を修了いたしました。学部生の頃からの6年間にわたり、黒田長高様をはじめ黒田奨学会の皆様には多大なるご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。奨学会からのご支援のおかげで、学業と研究に専念することができ、充実した学生生活を送ることができました。

経済的なご支援に加え、研修会や面談などを通して多くの貴重な学びの機会をいただきましたことに、改めて深く感謝いたします。研修会では、普段触れることのない分野の知識を学ぶことができ、また、さまざまな工夫が施された発表を拝聴することで大いに刺激を受けました。他の奨学生の方々の発表を聞くことで、新たな視点を得ることができ、自身の専門分野だけでなく、幅広い知識を身につける良い機会となりました。また、自ら発表する機会もあり、自分の専門分野の知識を分かりやすく伝える方法を考える貴重な経験となりました。特に、小田部先生からのフィードバックを通じて、効果的なスライドの作成方法や、発表時の姿勢・目線の重要性を学ぶことができました。また、質疑応答を通じて、必要のない補足情報を加える癖や、専門知識を十分な説明なしに提示してしまう課題にも気づくことができました。これらの学びは、学会発表や修士論文発表において大いに役立ちましたし、今後も活かしていきたいと考えております。

大学院では、SERSガスセンサの作製方法を探求し、より簡便で高感度なセンサの開発に取り組んでまいりました。この研究を通じて得た知識や経験は、今後のキャリアにおいても大きな糧となると確信しております。

今後は富士電機のDX部門で研究開発職として、新たな挑戦に取り組んでいく所存です。研修会で学んだことを活かし、社会に貢献できるよう努力してまいります。特に、技術革新が求められる現場において、これまでに培った研究力やプレゼンテーション能力を活かし、より良い製品・技術の開発に貢献したいと考えております。また、日々の業務の中でも学びを深め、成長し続ける姿勢を忘れずに精進してまいります。

最後になりましたが、黒田奨学会のますますのご発展と、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

九州大学大学院理学府物理学専攻修士課程修了 谷口 彰

この度、九州大学大学院理学府物理学専攻の修士課程を修了しました。修士課程の2年間を通して、多大なるご支援を賜りました黒田奨学会の皆様には、心より感謝申し上げます。私はこれまで、暗黒物

質の正体の解明に貢献することを目標に研究を行ってまいりました。暗黒物質は、宇宙の全エネルギーの約27%を占めていながら、その正体はまだまだ謎に包まれています。私はこの謎に対して、宇宙論、重力理論、量子論に基づいた理論的な研究に取り組んできました。

修士課程で充実した研究を進めることができたのは、黒田奨学会の皆様からの温かいご支援があったからです。毎月の奨学金に加え、研究支援奨学金、さらには国際学会参加支援奨学金など、継続的かつ多角的なご援助をいただいたことで、研究に専念できる環境が整いました。このようなご支援のおかげで、多くの学会や国際研究会に積極的に参加でき、他大学の研究者や同世代の学生との交流を通して、日々の研究に刺激と活力を得ることができました。

また、年に4回開催された黒田奨学会主催の研修会も、非常に有意義な学びの場でした。専門分野の異なる学生や理事の方々との交流を通じて、多様な視点からの研究アプローチを知ることができ、自身の考え方を深める契機となりました。特に、研修会で学んだ聴衆の関心を引きつける構成や説明の仕方を、実践的なスキルとして学会での研究発表に活かすことができました。このように、黒田奨学会からいただいたご支援は、単なる経済的援助にとどまらず、研究者としての成長を大きく後押ししてくださるものでした。日々の研究活動を支えていただいたことに、心より感謝しております。

今後は、引き続き九州大学大学院理学府の博士課程に進学し、暗黒物質の正体の解明に貢献する研究を続けていきます。より一層精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学大学院薬学府創薬科学専攻修士課程修了 中橋 凜太郎

このたび、九州大学大学院薬学府創薬科学専攻の修士課程を無事修了することができました。大学院での生活を振り返ると、辛い時期も長かったですが、本当にいろいろな経験をさせていただき、充実した時間を過ごすことができたと感じています。こうして学業と研究に専念できたのは、ひとえに黒田奨学会からのご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

研究では、有機合成をテーマにした課題に取り組みました。なかなかうまくいかないことも多く、何度も失敗を重ねましたが、そのたびに教員や学生間でのディスカッションを経て、少しずつ前に進むことができました。その結果、論文投稿まではもう少し時間がかかりそうですが、学部時代から取り組んできた研究テーマを完結させることができました。現在も大学院で新しい研究テーマに取り組んでいますが、目的の化合物の合成を達成した際の喜びは、今でもよく覚えています。

冒頭でも述べましたが、このように研究活動に集中できたのは、ひとえに奨学会からのご支援のおかげです。経済的な負担が軽減されたことで、研究に没頭するだけでなく、自分の時間も有意義に使うことができました。私は大学院入学時に黒田奨学会に採択いただいたことをきっかけに、社会人サッカーチームに所属するようになりました。サッカーを通して体を動かし、また人脈を広げることができたおかげで、精神的にもゆとりを持ちながら研究に取り組むことができました。このように、生活全体を支えていただいたことに、心より感謝申し上げます。

また、奨学会の研修会を通じて、熱心な教育的ご指導をいただき、プレゼンテーション能力の向上を実感することができました。有機化学という一般にはなじみの薄い研究テーマを分かりやすく伝えることは簡単ではありませんでしたが、どのように説明すべきかを試行錯誤した時間は、自分自身の成長につながる貴重な経験となりました。さらに、多分野にわたる知識を得られたことや、将来にわたって大切にしていきたい人とのつながりを築けたことも、かけがえのない成果だと感じています。

今後は博士課程へ進学し、研究者として飛躍的に成長したいと思っております。引き続き奨学金のご支援をいただけることを大変ありがたく思っており、そのご期待に応えられるよう、研究と自己研鑽に尽力していきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学システム情報科学府情報理工学専攻修士課程修了 横山 健

このたび、九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻修士課程を修了いたしました、横山健と申します。学部2年間および修士2年間の計4年間にわたり、黒田奨学会より多大なるご指導とご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

黒田奨学会からは経済的なご支援に加え、奨学生同士の交流や情報共有の機会も多くいただきました。特に、研修会や懇親会を通じて、同世代の優秀な仲間と意見を交わすことができたことは、私にとって非常に貴重な経験でした。自身の視野を広げると同時に、互いに刺激を与え合うような関係性が築けたことを、心から嬉しく思っております。

また、研修会での発表は、専門分野以外の方にも伝わるように工夫するという点で、学会発表とは異なる難しさがありました。そのような機会を通じて、自分の研究を客観的に捉え、わかりやすく伝える力を養うことができました。この経験は、研究費の申請書作成や企業との連携など、さまざまな場面で大いに役立っております。

4月からは、同大学博士後期課程に進学し、引き続き黒田奨学会よりご支援ならびにご指導を賜ることとなりました。心より御礼申し上げます。博士課程では、世の中を効率化する「近似アルゴリズム」の統一的枠組みの作成に挑戦していきたいと考えております。

最後に、私が博士課程に進むほど研究に熱中し、将来の道を真剣に見据えることができたのは、黒田奨学会の温かいご支援があつてこそだと実感しております。今後も、日本を牽引し社会に貢献できる人材となるべく、日々研究に邁進してまいりますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【学士課程卒業および修士課程入学生より】



広島大学医学部卒業 田之上 絢香

この度は私たち卒業生のために黒田長高様、ご令室様、伊達理事長をはじめとする関係者の方々、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございました。また、岡本先生に久しぶりにお会いできたことが、個人的に大変嬉しかったです。在学中、厳しくも愛のあるご指導を賜りましたことを大変懐かしく思い出しました。そして普段は会うことのない、関東地区、関西地区の学生とも交流することができて、遂に卒業するというその最後の日まで、たくさんの刺激を受けることができました。

6年前、黒田奨学会の入学式で同期と会い、彼らのスピーチを聴いた時、そのレベルの高さに圧倒され、半ば放心状態になったのを今でも鮮明に記憶しております。

優秀な学生ばかりの黒田奨学会ですが、私は一年浪人して、医学部と黒田奨学会どちらも2度チャレンジする機会をいただきました。その機会をいただけたこと、そして幸運にも採用していただき、6年間という長きにわたってご支援いただいたこと、感謝の念に耐えません。改めて感謝申し上げます。

4月から私は神奈川県横須賀共済病院で2年間研修医として働きます。救急車受け入れ台数が全国3位で、外科手術を沢山経験させてもらえる病院で、消化器外科医としての一歩を踏み出したいと意気込んでおります。

これから社会人として、今までとはまた異なる壁にぶつかると思います。しかし、そんな時にきつと黒田奨学会の卒業生であるという誇りが、その身分に恥じない自分でいたいという意思が、私自身を強くすると思います。

黒田奨学会をはじめ、多くの方々に支えられて、新しいスタートラインに立つことができました。このご恩をしっかりと社会に還元できるよう、日々精進してまいります。

黒田奨学会は卒業しますが、まだまだ未熟者です。暖かく見守っていただき、道に迷った時は今までと変わらずご指導ご鞭撻頂けると幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

九州大学医学部卒業
松崎 広太

この度九州大学医学部医学科を卒業いたします松崎広太と申します。

はじめに、黒田長高総裁、伊達理事長をはじめとする黒田奨学会の全ての方々に感謝申し上げます。貴奨学会には金銭的なご支援はもちろんのこと、研修会等の大変貴重な機会をいただきました。そこで、感謝の気持ちを込め、私の6年間の発表内容を振り返ることにいたしました。

1年生：「プロ野球データとともに考える機械学習の初歩」⇒{結論}ホークスの打者は西武の打者に比べホームラン数に対する得点率が悪い。

基礎教養段階であったため、好きなデータ分析とプロ野球の掛け合わせをテーマとしました。分析手法の原理を初見の人に説明する工夫に苦戦しました。

2年生：「指定難病と治療薬」⇒{結論}難病分野では特に中～高分子薬市場が拡大していく。

注射薬を経皮投与化するベンチャーでインターンしていたので発表しました。経皮化は頓挫しましたが、現在も様々な中～高分子注射薬が活躍しています。

3年生：「アルツハイマー病新薬【アデュカヌマブ】の臨床試験結果と社会に与える影響」⇒{結論}本薬の承認は正しい。また効果が出る人を選別して投与することが重要だ。

祖父が認知症のため選びました。その後本薬は販売中止となりましたが、現在は後継薬「レカネマブ」の投与が進んでいます。

4年生：心不全を取り巻く現状について⇒{結論}なし…？

この年行っていた学生生活のテーマを選びました。しかし、熱量と実力が足りず、活動を通じて現状を変えろといったことはできませんでした。

5年生：⇒睡眠時無呼吸症候群患者の苦しみ⇒{結論}放置すると他臓器にも影響が起きる。

こちらも祖父の持病です。その後祖父は適切な投薬により、症状は改善しました。

6年生：CT画像が読めるようになる！⇒{結論}CTは有用だが補助的に使用するのが良い

誰でも一回はみた事のあるCT画像をテーマにしました。この結論は私自身、初期研修中は心に留めたいと思います。

研修会では豊富な知識と経験を持つ先生方、そして探究心と理解力に富んだ奨学生の方々から多くの刺激をいただきました。

私は今年から東京都健康長寿医療センターに入職いたします。この病院は東京都で最も早く前述のアルツハイマー病治療薬「レカネマブ」の投与を始めた病院です。当病院で、黒田奨学生であった誇りを胸に、日々目の前の業務に全力で取り組みたいと思います。

6年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

神戸大学経営学部経営学科卒業
今井 琴海

このたび、神戸大学経営学部経営学科を卒業いたしました。4年間にわたり、ありがたいご支援をいただいたおかげで、経済的な不安を抱えることなく学業と課外活動の両面に全力で取り組むことができました。心より感謝申し上げます。

大学生活ではマンドリンクラブと古寺探訪同好会という二つの活動に力を注ぎました。マンドリンクラブでは「マンドラ」という楽器を大学から新たに始め、4年間活動を続けました。仲間とともに練習に励み、演奏会などのイベントに向けて活動した日々は、かけがえのない思い出です。3年次にはチーフマネージャーとパートトップを務め、運営面でも責任をもって取り組んだことは多くの学びと成長につながりました。また、古寺探訪同好会では、旅行形式で寺社仏閣やお城を巡る活動を行い、関西という土地柄もあって、京都をはじめとした歴史ある場所に数多く訪れることができました。こ

ちらでも1年間会長を務め、活動を主導しました。これらの活動を通して、一生の友とも出会うことができました。

黒田奨学会の活動を通じて、多くの刺激と出会いをいただきました。毎月の近況報告や学期ごとの報告書を通じて、自分自身を振り返る習慣が身についたことは大きな財産です。中でも研修会では、同じく関西地区の方々と関わることができ、自分の研究を専門の異なる人々に伝えるために試行錯誤したこと、また他の奨学生の発表から刺激を受けたことが、自身の学びをより深める原動力となりました。また、3年次からは瑞藤会総会が対面で再開され、講演会や懇親の場を通じて、人生の先輩方や同世代の仲間との貴重な交流の時間を持つことができたことも、かけがえのない経験でした。このような機会をいただけたことに、改めて心よりお礼申し上げます。

黒田奨学生としての4年間はこれで一区切りとなりますが、このご支援のもとで学び、成長できたことを心から誇りに思っております。この4年間で得た経験とご支援への感謝の気持ちを胸に、これから始まる社会人生活においても努力を惜しまず、社会に貢献するために邁進してまいります。改めて、これまでの温かいご支援に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、今後は瑞藤会会員として、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

佐賀大学教育学部学校教育課程卒業 川邊 遊

この度、佐賀大学教育学部学校教育課程を卒業しました。4年間にわたり、経済的なご支援だけでなく、精神的にもサポートをいただきましたこと、心より感謝申し上げます。卒業を迎えることができたのも、ひとえに黒田奨学会からのご支援のおかげだと感じています。

実は、奨学生として採用が決まった後、黒田奨学会に入ることを辞退しようと考えたことがありました。当時の私は、後期入試で佐賀大学に合格したものの、第一志望の大学に不合格となったことで自信を喪失し、奨学会に入ることにものすごくプレッシャーを感じていたのです。その思いをメールでお伝えしたところ、先生方からすぐに返信をいただき、「そこまで重く受け止めずにこれから頑張ればよい」と、あたたかく前向きな言葉をいただきました。その言葉に背中を押され、黒田奨学会の一員として恥のないように力を尽くそうと決意したのです。

そして今、4年間を振り返ってみると、黒田奨学会に所属したことで、奨学金をいただきながら、お金では得ることのできない経験や人との繋がりを得ることができたと感じています。また、毎月の近況報告や、研修会を通じて他大学や学部の学生、先生方と関わり、多様な視点に触れることで、「学び」に対するモチベーションを高く保つことができました。一度は辞退を考えた道でしたが、奨学生であったからこそ、学ぶことに精一杯取り組み、充実した学生生活を送ることができたのです。あの時、引き留めてくれた先生と頑張る決意をした自分に感謝したいと思います。

この4月からは、福岡市の行政事務職員として働きます。黒田奨学会に入った頃から、「社会貢献」という言葉について何度も考えてきました。私の考える社会貢献は「人の笑顔と幸せを増やして、社会の将来を明るくしていくための一助となる」ことです。市民の皆さまと直接関わる公務員として、与えられた職務に全力で取り組み、誠実に職務を果たしていく所存です。これまでと変わらず、責任感を持って課題に向き合い、感謝の気持ちを忘れずに、日々精進してまいります。そして、黒田奨学会の一員であったことを誇り思いながら、社会人として成長していきたいです。改めて、この4年間、本当にありがとうございました。

神戸大学国際人間科学部卒業 高田 早紀

私の大学生活のスタートは、決して順風満帆なものではありませんでした。2020年、新型コロナウイルスが猛威をふるう中での入学。不安を胸に迎えた新生活は、本来なら輝きに満ちたものであるは

ずでしたが、実際には、思い描いていた大学生活とは大きく異なるものでした。本来なら出会っていたはずの先生や友人たちとの交流もほとんどなく、引っ越したばかりの部屋でひとり、大学で学ぶことの意味を見出せずにいました。

私のまわりでも、コロナ禍の影響で学業を続けられなくなった人がいました。そうした現実を前に、自分自身も先の見えない不安を抱えていた中で、黒田奨学会から特別支援をいただいたことは、経済的な面で支えとなるだけでなく、困難な状況の中でも関わってくださる方がいるという安心感となり、大きな精神的支えにもなりました。

大学3年の修了時には、自分の進路や生き方について深く考える時間を得るため、休学という選択をしました。そして復学後、伊達理事長・重藤理事が面談の時間を設けてくださり、休学中の体験に耳を傾け、温かい言葉をかけてくださったことは、今も心に残っています。肩の力が抜けて、休学中の経験を力に変えて、あらためて学びに向き合おうと思えた、大切なひとときでした。

研修会や総会は、1年生から3年生のあいだはオンライン開催が続きましたが、昨年9月の関西研修会、そして3月の瑞藤会総会では、ようやく直接皆さんとお会いすることができ、本当に嬉しかったです。画面越しではわからなかった空気やあたたかさを感じることができ、ようやくこの会の一員としての実感が湧いたように思います。

振り返れば、困難な状況の中にも、支えられていた記憶がいくつもあります。黒田奨学会の皆様の支援がなしでは、安心して学び続けることも、自分自身と向き合う時間を持つこともできなかったと思います。

改めて、大学生生活の長きにわたり、寄り添い支えてくださったこと、変わらぬご支援を続けてくださったことに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

東京大学法学部卒業 渡邊 蒼生

この度、黒田奨学会を卒業いたしました渡邊蒼生と申します。黒田長高様を始めとする黒田家の皆様、及び理事の先生方を始めとする黒田奨学会の皆様に対しこれまでの支援に改めてお礼申し上げます。私は高校卒業に際し既に奨学会から内定をいただいておりますが、現役時代に第一志望の大学を不合格となり1年間の浪人生活を送ることとなりました。翌年無事に第一志望の大学への合格を果たした際、「待っていたよ」と私を暖かく奨学会へ迎え入れてくださり、奨学会の懐の深さを切に感じたことをつい先日のごとくのように覚えています。そうして始まった大学生活はコロナ禍真っ只中での幕開けでした。故郷福岡を離れ上京したものの、オンライン授業の毎日で通常の学生生活を送ることができず、やむを得ず一時的に福岡に帰ったこともありました。その際、新しくなった奨学会の事務所へご挨拶に行くと、理事の先生方が時間を取って面会してくださり、食事を共にしながら大学生活について親身に相談に乗っていただきました。その後もオンライン面談や研修会等の機会を通じ、留学を含めた5年間の私の成長を一番近くで見守っていただきました。改めてこの場を借りて皆様に感謝申し上げます。私は今春より外務省に入省し、駆け出し外交官としてのキャリアをスタートさせます。奨学会入会面接以来、様々な機会を通じ外交官として日本外交に携わることが私にとっての社会貢献である旨を申し上げてきました。今ようやくそのスタートラインに立つことができましたが、本当の社会貢献はここから始まります。黒田奨学会での学びと一員であった誇りを胸に今後とも一層奮励努力し、至誠通天の思いで自らの責務を全うしたいと思います。また、今後とも奨学会OBとして、黒田奨学会の活動に積極的に参加していきたいと思っています。5年間本当にありがとうございました。

九州大学工学部卒業 工藤 雅人

この度は、4年間にわたり多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。黒田奨学会からの金銭面だけでなく、精神的な面や経験・学びの面でも手厚いご支援をいただき、充実した大学生活を送ることができました。ここでは特に、ご支援によってこの4年間で私が経験し、学ぶことができたことについてご紹介させていただきます。

まず、専門分野外の学問領域についての興味や知識を深められたことが挙げられます。年4回開催される研修会での黒田奨学生の方々の発表を拝聴する中で、多岐にわたる分野への関心を育まれました。この経験によって学際的に思考することの重要性に気づき、大学において専門外の講義にも積極的に参加するようになり、また卒業研究ではアイデアを広げる際に得られた学際的な知識とともに大いに役立ちました。

また、ご支援により時間的なゆとりが生まれたことで、新しいことに挑戦する機会にも恵まれました。特に印象深いのは、昨年度のタイへの短期留学です。高校時代までは留学を選択しとして考えたことはありませんでしたが、黒田奨学会の支えがあったからこそ、挑戦してみようと勇気をもって未知に踏み出すことができました。その結果として、留学先のマヒドン大学の研究室で専門分野に関する知見を深めるとともに、タイの文化や価値観に触れることができ、見識を広げることができました。さらに国内でもそれまで訪れたことがなかった様々な場所を訪れたり、社会経験を重視してアルバイトに取り組んだりすることができ、「自分が社会の中で活かされている」という意識や広い視野を持つことができた貴重な体験となりました。

改めまして、大学生活4年間を温かく支えてくださったことに深く感謝申し上げます。いただいたご恩に報いるため、そして得た知識と経験を社会に還元していくために、大学院に進学し、さらに深い知識と技術を身につけるべく勉学や研究活動に尽力してまいります。今後も引き続き奨学金を賜りながら、より一層努力し、社会に貢献できるよう努めていく所存です。

東京大学工学部計数工学科卒業 仲西 優貴

4年間にわたって黒田奨学会のご支援を賜り、この度東京大学工学部計数工学科を卒業することになりました。心より感謝申し上げます。学部生活においては、学業や研究に加え、エンジニアとしてのインターンシップやビジネスコンテストへの参加など、自分の興味があることに自由に取り組むことができ、とても有意義な時間を送ることができました。黒田奨学会のご支援がなくてはこのような充実した生活を送ることはできませんでした。黒田奨学会には経済的な支援に加え、研修会や総会、関東地区での食事会など奨学生の皆様と関わる機会をいただきました。先輩方の姿を見て多くの学びをいただいたり、私とは全く異なる分野を学ぶ奨学生の方々の発表から広い視野を得たりと、黒田奨学会の一員でなくてはなし得ない経験を数多くいたしました。改めまして4年間のご支援大変ありがとうございました。

私は4月から東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻に進学します。黒田奨学会にはさらに2年間ご支援をいただけますこと、重ねて感謝申し上げます。学部では、リアルタイム音声抽出という技術に関する研究を行いました。これは雑音がある環境でリアルタイムに対話相手の音声を抽出する技術であり、補聴器などに応用されています。大学院では学部とは別の研究室に進学し、VRなど身体拡張に関わる研究に携わろうと考えております。大学院生活の中で、さらに情報技術の知見を深め、近年発展のめざましいIT分野で社会貢献を果たせる人材となるべく、研究およびエンジニアとしての技術の成長に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。最後になりますが、4年間にわたる多大なるご支援に感謝申し上げます。

京都大学薬学部卒業 宮崎 結生

このたび、無事に大学を卒業することができました。大学で学びを深め、さまざまな経験を積むことができたのは、家族や指導教員、友人、そして黒田奨学会の皆さまからの温かなご支援のおかげだと、心から感謝しています。

学部では、アルツハイマー病の原因とされるアミロイド β の脳からの排出機能と概日リズムの関係に着目し、髄膜リンパ管を介した老廃物排出のメカニズムに関する研究に取り組みました。概日リズムがアミロイド β の排出にどのように影響するかを探るために、仮説を立て、試行錯誤を重ねながら実験とデータ解析を行いました。思い通りにいかない場面も多くありましたが、そのたびに粘り強く向き合い、冷静に結果を解釈する力を養うことができたと感じています。

学部での研究経験を通じて、得られたデータをいかに解析し、意味を見出すかという過程に強い関心を抱くようになり、バイオインフォマティクスという新たな分野に進む決意を固めました。大学院では、スプライシング異常に関する研究に取り組み、遺伝性疾患の新たな治療法の発見につながるような研究を目指したいと考えています。実験とデータ解析の両面に精通した研究者として社会に貢献できるよう、努力を重ねてまいります。これまでとは異なる分野への挑戦であるため、不安もありますが、自分で選んだ道であるからこそ、全力で取り組みたいと思っています。

研究に限らず、大学生活全体を振り返っても、非常に充実した時間を過ごすことができました。日々の生活で得ることのできたすべての経験が自分の視野を広げ、今の自分を形作ってくれたと感じています。そうした日々を経済的な不安なく過ごすことができたのは、黒田奨学会からのご支援があつてのことだと感じています。この恵まれた環境の中で、安心して学びに集中し、自らの可能性に挑戦することができたことに深く感謝しています。

改めて、黒田奨学会の皆さまの温かいご支援に心より御礼申し上げます。大学院での新たな学びにおいても、ご支援を糧に、将来、社会に貢献できるよう精進して参ります。

東京大学工学部応用化学科卒業 山本 颯真

まず、学部一年生からの4年間に渡り、黒田奨学会様より手厚い御支援をいただいたことを誠に感謝いたします。自分は来年度より東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻に進学いたしますが、それに際して新たに奨学生として採用いただき、更に2年間黒田奨学会より御支援をいただきますことを心より感謝申し上げます。自分が無事卒業および進学できるのは学部4年間に渡りいただいた御支援の賜物であると痛感しております。

具体的に言うと、自分が所属する化学系の研究室では毎日の拘束時間が非常に長く、アルバイトの時間を十分に確保することが難しいという問題があります。自分が日々の研究に専念し生活を乱さずに済んだのはひとえに奨学会のおかげです。

また、金銭的な御支援に留まらず、研修会で自発的な発表の機会をいただいたことは卒業論文研究の発表にあたり大いに助けとなり、ありがたい限りでございます。自分が大学に入学してから約2年間は新型コロナウイルスの影響により自発的な発表の機会の場が非常に少なく、そういった意味でも研修会は貴重な機会であったと実感しております。

自分は現在、有機金属化学および触媒工学の分野において特に窒素固定に関連する研究を行っており、ハーバー・ボッシュ法に代替する常温・常圧でのアンモニア合成反応を可能にする触媒の研究を志向しております。来年度より大学院に進学いたしますが、そこでは現在所属している研究室のまま、自分の卒業論文研究をさらに発展させ社会貢献につながるような成果を生み出していきたいと考えております。改めてこれまでの手厚いご支援に心より感謝いたしますとともに、今後さらに二年間のご支援を何卒よろしくお願いいたします。

新 奨 学 生 よ り

Welcome to KURODA SHOGAKUKAI

大学院特定枠奨学生

九州工業大学大学院情報工学府 情報創成工学専攻 朝岡 翔大



九州工業大学大学院情報工学府情報創成工学専攻に進学しました、朝岡翔大と申します。この度は伝統ある黒田奨学会に大学院特定枠奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。熱意あふれる優秀な学生が

集まる黒田奨学会の奨学生となれたことを光栄に思うと共に、自身も一員であるという自覚を強く持ち、より一層の自己研鑽に努めていきたいと思っています。

私は時系列データ解析手法の一つであるKoopmanモード分解(KMD)についての研究を行っています。時系列データは時間と共に変化するデータのことであり、身近なものと電力消費量や気象データなどがあります。これらのデータを適切な手法で取り扱うことにより様々なことが予測可能です。有名な手法としてフーリエ分解がありますが、これは周期的なデータに限定するという制約があります。一方で、KMDは増幅・減衰するデータに対しても適用可能であるため応用の幅が広いと考えられています。KMDの研究は予測精度が優れないことが理由で研究が停滞した過去がありますが、私の関わっている合同研究チームがその原因を解明したことで進展があり、今後は実データに対しての適用を経てさらに研究を進めていきます。私の研究が新たな手法の開発に貢献できることに大きな喜びを感じながら日々研究に励んでおります。

大学院ではKMDの研究を進めて、成果を上げることがもちろん、黒田奨学会の優秀な奨学生と交流して専門分野以外でも成長していきたいです。個人的な趣味として大会出場、入賞を目指してのボディメイク、古くから伝わる論語や大学などの

名著の勉強にハマっているのでそのようなことが好きな奨学生の方と繋がることができれば嬉しい限りです。人とのつながりを大切にしながら、日本の将来を担い、発展させることができる人材となることを目指して日々精進していきます。よろしく願いいたします。

九州大学大学院理学府物理学専攻 池田 大樹



この春、九州大学大学院理学府物理学専攻(量子宇宙物理理論研究室)に進学することになりました池田大樹と申します。この度は、黒田奨学会大学院特別枠奨学生として採用していただきまし

たことを大変喜ばしく思っております。皆様方と交流をさせていただく中で刺激を受けながら、大学院生活が少しでも実りのあるものになるよう、そして基礎科学の発展という形で社会に貢献できる人材となるよう、邁進していく所存です。

さて、黒田奨学会は、旧筑前国の当主黒田家に由来があるようです。そしてその黒田家の先祖には、2014年の大河ドラマで一躍有名となった天才軍師黒田官兵衛がいるとお伺いしております。播磨国姫路に生まれた黒田官兵衛は、有岡城に1年間も幽閉され足を悪くするも、豊臣秀吉に仕え備中高松城水攻めや中国大返しを思いついたことで有名です。太閤秀吉の時代になってからは黒田如水として福岡に至り、それが後の旧筑前国当主黒田家ひいては黒田奨学会になっているわけですね。

ところで、私は兵庫県姫路市の出身で、大学入学時にここ福岡へやってきました。そう、これはまさに、黒田官兵衛と同じようなルートを辿ってきていることになるのです。大学入学が決まった瞬間に彼との運命を感じたことを今でも強く覚えておりますが、黒田奨学会の奨学生として採用が決まった際には、そのときよりも一層強いもの

を感じました。

大河ドラマの劇中で、幼少期の彼が武術の稽古を途中で投げ出してまでも兵法書(当時の学術書の中でも重要な分野)を読んでいるシーンがありましたが、彼の学問に対する熱心さには目を見張るものがあります。そんな彼のように、私も学問への熱を大切に日々努力してまいります。至らぬ点も多いとは思いますが、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

九州大学大学院生物資源環境科学府 資源生物学専攻 今泉 奈々



この春、九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻に進学いたしました今泉奈々と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会の奨学生の一員となれましたことを大変光栄に思っております。大学院での研究活動に加え、黒田奨学会における研修会などの機会も通じて、自らの専門分野に限らず、他分野にわたる知見も広く深めていきたいと考えております。

私は、地球温暖化に伴う高温や低温などのストレス環境下においても、作物の安定的な生産を可能にすることを目標とし、研究を行っております。世界人口は年々増加しており、世界の主要穀物であるイネやコムギを始めとした作物の安定的な生産および供給が必要不可欠になると考えられています。しかし、地球温暖化に伴う温度障害や異常気象により作物の収量の低下や品質の低下が引き起こされており、世界的な課題となっています。近年では日本においても、イネの登熟期に高温が続くことで、粒の充実が不足して玄米の外観品質の低下や食味の低下が報告されています。作物が高温や低温などといった環境ストレスを受けると、得られた種子において様々な形質変化が生じることが明らかになっていますが、温度が直接的な原因であるかどうかは未だ明らかになっていません。そこで私は、登熟中の種子における栄養状態の違いが形質変化を引き起こす根本的な原因なのではないかという仮説のもと、研究

を進めています。大学院では、これらの研究を通して登熟期における栄養状態と形質変化との関係を明らかにし、環境ストレス下における安定的な作物生産に貢献することを目指します。

そして学部や大学院で学んだ農学に関する知識や、研究活動を通して得られた課題解決能力を活かして、将来的には農学の分野において貢献していきたいと考えております。

最後になりますが、黒田奨学会より多大なご支援をいただけることで、大学院での研究活動に専念できておりますこと、心より感謝申し上げます。修士課程の2年間では、他分野での学びを自身の専門分野に活かし、社会に貢献することができるよう日々精進してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学大学院薬学府創薬科学専攻 栗野 陽平



皆様、はじめまして。この春、九州大学大学院薬学府創薬科学専攻に進学いたしました栗野陽平と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史

ある黒田奨学会および瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うと同時に、先輩方やOB・OGの皆様のように社会で活躍できる人材になれるよう、今後も成長の機会を大切にしながら、様々なことに挑戦してまいります。また、研修会などを通じて異なる分野の方々と交流し、新たな視点や知見を得ることで、自身の研究にも生かしていきたいと考えております。

私は将来、製薬企業などの医療分野において研究者として活躍し、人々の健康や生活の質の向上に貢献することを目標としています。そのために、現在は研究室で研究活動に励み、研究における思考プロセスや実験の進め方を学んでいる最中です。研究者としての基礎をしっかりと築きながら、今後さらに成長できるよう努めてまいります。

学部時代から現在にかけて、私は薬学部・薬学府の薬理学分野に所属し、「痛みのメカニズムの解明」に取り組んでいます。慢性疼痛は世界中で大きな課題となっており、全人口の約20%が慢性的な痛みで悩まされていると推定されています。しかし、既存の鎮痛薬が十分に効果を示さず、多

くの患者が痛み苦しんでいるのが現状です。鎮痛薬の開発には、疼痛メカニズムの詳細な理解が不可欠であり、私たちの研究室ではその解明に向けて日々取り組んでいます。

痛みを研究する上で、私は特に脳から脊髄へと神経線維を伸ばすような「下行性神経」に着目しています。これまでの研究では、中脳・橋・延髄といった脳幹に由来する下行性神経の働きが注目されてきましたが、それ以外の脳領域からの下行性神経については未解明な部分が多く残されています。そこで私は、これらの神経経路を網羅的に解析し、それぞれの役割を明らかにすることを目指しています。この研究が進めば、新たな鎮痛戦略の確立につながる可能性があり、より効果的な疼痛治療の実現に貢献できると信じています。

大学院での研究を通じて、科学的思考力や実験技術を磨き、研究者としての素養を高めることで、将来的に社会に貢献できる人材へと成長していきたいと考えております。まだまだ未熟ではありますが、奨学会の一員として、日々研鑽を積んでまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

九州大学大学院マス・フォア・イノベーション 連係学府システム情報科学系 清水 貴弘



九州大学大学院マス・フォア・イノベーション連係学府システム情報科学系に進学いたします、清水貴弘と申します。この度は大学院生特別枠に採用していただき、黒田奨学会、そして瑞藤会の一員になりましたこと大変光栄に思います。

学部の際に行っていた研究はモバイルロボット群の分散協調についてです。分散協調というのは、計算を1つの計算機(ロボット)で行うのではなく、複数の計算機で行うことでシステムの拡張性、効率性、故障耐性を高めることができるというものです。モバイルロボットの応用例としては分子ロボットやネットワークの制御などが挙げられます。分散協調の内、私が取り組んでいたのは一直線に並んでいるロボット群がソート、つまり並べ替えを行うというものです。ロボットが動ける範囲を広げることで並べ替えるのに必要な時間が短く

なるかどうか、範囲に対する最低限必要な時間がいくらのかを研究していました。

大学院では学部で行っていた研究からはテーマを変えて、時間的グラフにおける様々な問題を考察していきたいと考えています。グラフというのは、離散数学における頂点と辺からなる離散構造で様々な問題をモデル化することができます。例としては、頂点を町、辺を道路として考えると最短経路を見つけるような問題や、すべての町を巡って元の場所に戻ってくる最適な順番を見つける巡回セールスマン問題などが挙げられます。時間的グラフというのはそのグラフの内、辺にある値が与えられているようなものです。ある値というのはその辺が存在している時間です。つまり、グラフの形が動的に変化するようなモデルを考えます。こうすることで工事中の道路や、電車の乗り換えなど状況が変わるようなものも正確にモデル化することができます。

最後に、大学院では研究だけでなく課外活動などにも積極的に関わることでスキルアップを目指したいです。黒田奨学会での交流を通して、新たな仲間とともに切磋琢磨していこうと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

九州工業大学大学院情報工学府 情報創成工学専攻 中村 大輝



九州工業大学大学院情報工学府情報創成工学専攻修士1年の中村大輝と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを

大変光栄に存じますとともに、今後はこれまで以上に勉学および研究に一層精進してまいり所存です。

私は現在、物性限界に近いSi(シリコン)に代わる次世代パワーデバイス材料として注目されているGaN(窒化ガリウム)の研究を行っており、特にN極性GaNの低い薬液耐性を利用したウェットエッチングプロセスの開発に取り組んでいます。ウェットエッチングは、装置コストが低く、同時に多くの基板を処理できるという点で有望な加

工手法ですが、N極性GaNに対しては、TMAH水酸化テトラメチルアンモニウム)によるエッチング後の表面が粗面化されるという課題があります。この粗面化は、パワーデバイスの電気的特性を劣化させる要因となるため、表面平滑性の向上が求められます。また、フォトリソグラフィ工程で使用する現像液(TMAHを2.38wt.%に希釈した溶液)によっても、N極性GaNは容易にエッチングされ、工程中の意図しない表面改質の懸念や製品信頼性に影響を与える可能性があります。そのため、本研究では、N極性GaN表面の粗面化を抑制し、あるいは表面形状の制御が可能なウェットエッチング条件を検討することで、パワーデバイスへの応用が可能なエッチングプロセス手法の確立および現像液の開発を目指しています。

また、私はこれまでにクリーンルームでの洗浄、成膜、リソグラフィ、エッチングといったプロセスを実際に経験しており、装置に関する実践的な知識を培ってまいりました。将来は、これらの知識とGaNに関する専門的な研究成果を基に、プロセスエンジニアとして社会に貢献したいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会のご支援のもと、意義ある研究成果を挙げられるよう尽力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学工学府材料工学専攻 檜崎 淳也



この春より九州大学大学院工学府材料工学専攻に進学いたしました檜崎淳也と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史を持つ黒田奨学会の一員となれたことを大変

光栄に思っております。ご支援に深く感謝するとともに、社会に貢献できる人材となるべく、これまで以上に勉学と研究に励んでまいります。また、研修会などで他の奨学生の皆さんと交流できる機会を大切に、高い志を持つ仲間から刺激を受けながら、自らをさらに高めていきたいと考えております。

私は将来、材料分野の研究者として、材料の特性向上を通じて社会に貢献したいという目標を

持っています。現在は、主に金属材料の変形挙動について研究しており、大学院では変形メカニズムの実験的解析に取り組む予定です。金属材料は自動車や航空機だけでなく、私たちの身近な生活にも広く使われていますが、その変形から破壊に至る詳細なメカニズムはまだ十分には解明されていません。この課題に取り組むことで、高強度化をはじめとしたさまざまな社会的価値の創出に寄与できると信じています。青銅器時代から産業革命、さらには現代のIT社会に至るまで、材料は常に人類の進歩とともに歩んできました。材料の研究には、社会を変える力があると強く信じております。

今後は研究だけでなく、大学院生活を通じて多様な経験を積み、知識を深め、自ら考え行動し、問題解決できる力を養いたいと考えております。学会発表やインターン、交流会など学部生時代には得られなかった機会を活かし、思考力や関心の幅をさらに広げてまいります。また、材料分野に限らず幅広く学び続けることで、変化の激しい現代社会に柔軟に対応できる人間へと成長していきたいと考えております。

最後に、黒田奨学会からいただくご支援を決して無駄にすることなく、日々感謝の気持ちを忘れず、努力を重ねてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学大学院システム情報科学府 情報理工学専攻 福田 航



この春、九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻に進学いたしました福田航と申します。この度は黒田奨学会の奨学生にご採用いただき誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会の奨学生および

瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思うとともに、今後は黒田奨学生としての自覚を持ち、より一層学業や研究活動に励んでいきたいと考えています。

私は現在、IoTとAIの融合に関する研究を専門に行っています。近年では、SwitchBotのようなIoTデバイスが急速に普及しつつあり、それに伴って私たちの生活はますます便利で快適なもの

って私たちの生活はますます便利で快適なものとなっています。

しかしながら、現在主流となっているスマートホームシステムには、課題があります。第一に、IoT機器同士の連携や統合が難しいという点が挙げられます。ユーザーはスマートフォンアプリ上でオートメーションを設定することで、特定の条件下で自動的に機器を連携させることが可能です。しかしながら、こうした設定作業はオートメーションが複雑になると設定が大変になります。第二に、居住者の行動パターンや嗜好が時間とともに変化することにスマートホームが柔軟に対応できていない点が挙げられます。一度設定したとしても、居住者の生活習慣が変化した場合には都度手動で再設定を行う必要があります。

こうした課題に対処するため、私は学部時代にQ学習という強化学習を活用し、スマートホームにおけるIoTデバイスのオートメーションを自動で生成するシステムの研究に取り組みました。しかし、学部での研究段階では、学習にかかる時間の長さなど、依然として多くの技術的課題が残されています。そこで大学院では、模倣学習や連合学習といった技術を取り入れ、これらの課題を乗り越えるための研究を進めていきたいと考えています。

私はこの研究を通じて、IoTとAIの融合がもたらす技術革新が、将来的には誰もが快適で安心できる住環境を享受できる社会の実現につながると信じています。黒田奨学会のご支援を賜りながら、研究に一層励み、社会に貢献できる成果を生み出していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学 経済学府 経済システム専攻 松瀬 真未



九州大学大学院経済学府経済システム専攻にこの春より進学いたしました、松瀬真未と申します。

この度は、黒田奨学会大学院特別枠奨学生としてご採択いただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し

上げます。

黒田奨学会並びに瑞藤会の一員として新たな学びの門出を迎えられましたことを、大変光栄に思っております。これから始まる大学院での研究生活に向け、身の引き締まる思いとともに、頂いたご支援の重みを感じております。

私は現在、持続可能な社会の実現を目指し、環境経済学、特に貨物輸送におけるCO₂排出削減に関する研究に取り組んでおります。貨物輸送由来のCO₂は、全体の排出量において大きな割合を占めており、私たちの日常生活とも密接に関わっています。こうした背景のもと、輸送分野におけるCO₂排出削減策としてさまざまな手法が模索されていますが、次世代エネルギーの導入や車両の燃費改善には、技術的・経済的な障壁が依然として存在しています。

このような状況を踏まえ、既存の輸送インフラを活用した持続可能な対策への関心が高まっており、特にトラック輸送から鉄道・海運といった環境負荷の低い輸送手段への転換を促す「モーダルシフト」に着目しています。私は、都道府県間輸送データを用い、輸送距離・輸送量・輸送手段別の特徴を精査しつつ、地理的な相互依存性も考慮した実証分析を進めています。モーダルシフトの潜在可能性とその環境効果を定量的に明らかにすることで、実現可能な輸送政策の提案につなげ、持続可能な物流システムの構築に貢献したいと考えております。

最後になりますが、黒田奨学会の名に恥じぬよう、与えていただいたこの貴重な機会を糧に、研究に誠実に向き合い、様々な挑戦を通して成長してまいります。そして、将来は本奨学会からいただいたご恩を社会に還元できる人材となることを目指し、精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

大学一般奨学生

広島大学生物生産学部生物生産学科 青柳 洸哉



この春、福岡県立嘉穂高等学校を卒業し、広島大学生物生産学部になりました、青柳洸哉と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。由緒ある黒田奨学会の奨学生、及び瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に感じるとともに、多方面に社会貢献されている先輩方に続けるよう日々精進してまいります。

私は食糧生産における機能性や生産性の向上、に対して、興味のある分野である分子生物学的アプローチから貢献したいと考え、広島大学の生物生産学部を進学先を選びました。二年生後期のプログラム配属では分子農学生命プログラムを希望しており、植物育種学や植物発生学について学び、作物のもつ有用な分子の機構を解明や導入の研究に寄与したいと考えています。また、食糧生産は環境問題にも大きく関係する側面を持ちます。広島大学には広大な敷地を利用した農場や自然があり、食糧生産と自然環境管理のバランスについて体系的に学ぶことができます。私は食糧生産を学ぶ上で、持続可能な作物生産体制の構築にも視野を広げていきたいと考えています。

私は食糧生産における機能性や生産性の向上、に対して、興味のある分野である分子生物学的アプローチから貢献したいと考え、広島大学の生物生産学部を進学先を選びました。二年生後期のプログラム配属では分子農学生命プログラムを希望しており、植物育種学や植物発生学について学び、作物のもつ有用な分子の機構を解明や導入の研究に寄与したいと考えています。また、食糧生産は環境問題にも大きく関係する側面を持ちます。広島大学には広大な敷地を利用した農場や自然があり、食糧生産と自然環境管理のバランスについて体系的に学ぶことができます。私は食糧生産を学ぶ上で、持続可能な作物生産体制の構築にも視野を広げていきたいと考えています。

大学生活においては根気と能動を柱に過ごしていきたいと思っています。国際交流が盛んであり、総合大学でもある広島大学という環境を活かし、生物研究のみに没頭するのではなく、積極的な専門や文化の異なる人々との交流や他分野の講義の受講を通して、多角的な考え方や教養を身に付けて将来の研究に活かしていく所存です。さらに、サークルやボランティア活動、資格の取得などの大学ならではの経験にも根気強く取り組みたいと考えています。これらの二つの柱は人生において、努力を結実させるために重要であると考えています。特に作物研究では未知の遺伝子の探索やその導入など先の見えにくい状況が多く、その中で結果を残していくには多様なアプローチとそれに伴う根気が必要不可欠です。今後は様々な経験を積み、遺伝子の知識を学ぶとともに、実践を通して粘り強く技術の取得に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、至らぬ点多々あるかと存じますが、黒田奨学会の名に恥じぬよう、社会貢献に向けて努力していく所存です。今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大阪大学工学部応用自然科学科 朝山 眞佳



この春、筑紫丘高等学校を卒業し、大阪大学工学部応用自然科学科に進学いたしました朝山眞佳と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会および瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うと同時に身の引き締まる思いです。先日行われた黒田奨学会の入会式では、新奨学生の方の高い志や貴重な先輩のお話を伺うことができました。このような環境に身を置くことができることに感謝するとともに、私自身もさらなる研鑽を積んでいくことを固く決意しました。これからの大学生活が充実したものとなるよう、精一杯努めてまいります。

私は将来、日本に豊富にある自然の力を利用し、さまざまな問題を解決する研究をしたいと考え、応用自然科学科を選びました。現在、大学では二年次からの専門的な学びに向けての基礎となる学習に取り組んでいます。共通科目として科学、物理、生物すべての授業があり、それぞれの面白さに触れながら、幅広い知識を得ることができます。受験で生物を選択していなかった私にとって、特に生物の授業は刺激的です。地球規模での課題の解決と持続可能な文明の発展には自然の力が必要不可欠だと感じています。自然現象を学び、エネルギー問題や環境問題へ応用できる新しい技術の創出に取り組むと考えています。また、世界各国の大学との交流も盛んで、留学プログラムへの参加や大阪大学への留学生との積極的なコミュニケーションを通して、国際力も身に付けたいと考えています。

私は将来、日本に豊富にある自然の力を利用し、さまざまな問題を解決する研究をしたいと考え、応用自然科学科を選びました。現在、大学では二年次からの専門的な学びに向けての基礎となる学習に取り組んでいます。共通科目として科学、物理、生物すべての授業があり、それぞれの面白さに触れながら、幅広い知識を得ることができます。受験で生物を選択していなかった私にとって、特に生物の授業は刺激的です。地球規模での課題の解決と持続可能な文明の発展には自然の力が必要不可欠だと感じています。自然現象を学び、エネルギー問題や環境問題へ応用できる新しい技術の創出に取り組むと考えています。また、世界各国の大学との交流も盛んで、留学プログラムへの参加や大阪大学への留学生との積極的なコミュニケーションを通して、国際力も身に付けたいと考えています。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに深く感謝申し上げます。大学生活や奨学会での活動を通して、奨学生のみなさんや先輩方と切磋琢磨し、より一層の努力を重ねてまいります。至らぬ点多々あ

ると存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学工学部Ⅳ群 安樂 音乃



この春、筑紫女学園高等学校を卒業し、九州大学工学部Ⅳ群に進学いたしました安楽音乃と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用いただき誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会の奨学生と

瑞藤会の一員になれましたことを大変光栄に思うとともに、身が引き締まる思いでございます。また、多岐にわたる学問分野を専攻されている奨学生の皆様との交流を通じて刺激を受け、日々精進して参ります。

私は将来、国土交通省所属の技術者として、国の防災のあり方に関する提案や、景観を保持しながら自然の持つ機能を活かした設計を行うことを通じて社会貢献したいと考えております。高校では山岳部に所属し、季節や時間帯で姿を変える多様な自然景観を見てきました。土砂災害の影響で登山道が封鎖され、迂回を余儀なくされたこともありました。自然の力と対峙し、私たちの暮らしを守ることの重要性を考えるきっかけとなりました。

現在、地球温暖化による気候変動に伴い、豪雨による自然災害が増加している一方で、公共事業の予算はこの20年で大幅に減少しています。また、高度経済成長期に整備されたインフラが老朽化しており、今後、耐用年数を過ぎたインフラが増加すると予測されています。私たちが安心して暮らしていける国土を保全するにあたり、自然景観を守りつつ防災の設備を整えていくことは喫緊の課題であり、この課題解決は難しい挑戦であると考えます。

この重要な課題解決のために、大学で土木工学を学び、本来の地形や自然が持つ景観、排水機能などを最大限に活かした防災技術や知識を活かし、さらにITを活用した効率的な対策を検討していきます。そして、防災意識を高めつつ、日本が本来持つ自然景観の美しさを人々に発信し、人と自然が共存できる国土を実現することを目指します。新たな研究環境に身を置き、さまざまなプログラ

ムに参加し知見を広め、瑞藤会の皆様との交流を通じてその価値観や考え方を知り、今後に活かしていきたいと考えております。

まだまだ至らぬ点が多いと思いますが、黒田奨学生としての自覚と誇りを持ち、懸命に努力して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

佐賀大学医学部医学科 上田 景子



この春、福岡大学附属大濠高等学校を卒業し佐賀大学医学部医学科に進学いたしました上田景子と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学

会及び瑞藤会の一員として選んでいただけたこと、大変光栄に思っております。また様々な分野でご活躍の先輩方や多様な学問を学ぶ他の奨学生の方と出会えること、非常に嬉しく思っております。社会に貢献できる人材となれるよう、日々努力を積む所存です。

私は将来、総合診療専門医として少子高齢化に適応した健やかで豊かな社会の実現に貢献したいと考えています。高齢者は慢性的な複数の病気を抱える傾向にあります。総合診療専門医ならば肉体、精神、環境を横断的、長期的に診ることができ、患者さんへの包括的サポートができます。また幾つもの診療科を経ることなくワンストップで診ることができ、必要に応じて他の専門医に紹介をすることもできるため限りある医療資源を有効活用できるとともに患者さんの負担を減らすことができます。佐賀大学医学部附属病院は総合診療部を1986年に日本で初めて国立大学医学部附属病院の総合診療部門として設置しています。早期から総合診療を重要視し、長年ノウハウを培ってきた佐賀大学医学部で成長していきたいです。

大学生活では、医師として不可欠な知識・技能・態度を学びます。また、日本の医療システムをより深く見つめるために国際的視野を身につけます。そのために海外での研修等にも積極的に挑戦します。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに改めて深く感謝申し上げます。

ます。至らぬ点も多くある私ではありますが、一生懸命努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学理科二類 王子田 俊太郎



この春、福岡高校を卒業し、東京大学理科二類に進学いたしました王子田俊太郎と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史を持つ伝統ある黒田奨学会の一員として加えていただいたことを大変光栄に思うとともに、その一構成員であることを自覚し、これまで以上に自己研鑽に励んでまいりたい所存です。

私は現在、理学部生物情報科学科への進学を希望しております。生物情報科学とは、コンピュータを用いた大規模なゲノム解析を通じて生命の仕組みを解明し、さらに病気の症状やメカニズム、原因を明らかにする病態解析などを行う研究分野です。生物という有機的な存在を、コンピュータという機械的な手段で解析しようとするアプローチに強く惹かれ、将来は病気の治療や予防に関わる研究を通して、多くの人々の役に立ちたいと考えております。

また、東京大学では1・2年次に教養学部にも所属し、文理を問わず幅広い分野を学ぶことができます。私は、これまで「知らないことを学ぶ」という過程を通じて、多様な視点から物事を捉える思考の土台を築いてきたと感じております。専門的な学びに入る前だからこそ可能な柔軟な思考を大切に、謙虚に、そして積極的に様々な分野に触れながら、将来に活かせる力を養っていききたいと考えています。

最後になりますが、このたび黒田奨学会の一員として採用いただき、多大なご支援を賜りますことに改めて感謝申し上げます。まだまだ未熟な点も多くございますが、社会でご活躍されている先輩方のお話に学び、日々刺激を受けながら精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部理科一類 大塚 拓己



修猷館高等学校を卒業し、現在東京大学教養学部理科一類に在籍しております大塚拓己と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤

会の一員として、これからも弛まず精進していこうと、身の引き締まる思いを感じております。

私は現在地球科学に興味を持っており、将来は内核の研究をしたいと考えております。内核では液体の金属が対流しており、それによって地磁気が生み出されていると考えられています。私はこのメカニズムに特に魅力を感じており、地磁気の反転などがどのようにこの理論で説明できるのかを将来研究していきたいと考えています。そのために大学では、内核の対流を説明するための物理の手法について学び、また、それを実際に計算できるようプログラミングについても修得したいと考えています。地磁気は宇宙線を遮蔽することで私たちを守っているため、これについて研究することは未来の私たちの安全性を考えることでもあります。地磁気の挙動を理論で確実に説明できるようにすることで、地磁気の変化について予想できるようにし、社会に貢献していきたいと思ひます。

私は大学在学中に勉強のみをするのではなく、登山をして実際に地層を見るフィールドワークなど、実体験も積みたいと考えています。実際に経験することと、本で読んだり話を聞いたりするだけでは全く異なるからです。理論研究を志望しているとはいえ、内核研究という目的のためには実験や観察も必要になるでしょう。そのような際の感覚や直観は経験がなければ養われないと思うので、実践的な経験を積むことにも重点を置いて生活していきたいと思ひます。

私は、将来やりたいことについてはかなり具体的に決めてはいるのですが、視野を狭めることなく、少なくとも学部生のうちは地球科学のみならず科学全般について広く学び、独自の視点を身につけられるようにしたいと考えています。

熊本大学薬学部薬学科 大場 咲和



この春、福岡高等学校を卒業し、熊本大学薬学部薬学科に進学いたしました大場咲和と申します。この度は黒田奨学会の奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となること

ができたことを大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。

私は将来、薬剤師として医療の面から社会に貢献したいと考えています。薬剤師は薬の専門家として医療に携わり、人の健康を支える必要不可欠な存在であると感じています。様々な場所で活躍する薬剤師ですが、私はその中でも特に病院薬剤師になりたいと思っています。病院におけるチーム医療では様々な医療スタッフ間の連携が重要であるとされており、薬剤師もその一員です。特に薬剤に関して医師と対等に話すことで、患者さんにより合った処方をする事ができると考えます。そのためには、薬剤に関する豊富な知識、深い理解に加え、患者さんに寄り添う力、患者さんや医師をはじめ周囲の人から信頼されることも求められると考えています。

これからの大学生活では、勉学に励むとともに人としても成長したいと考えています。薬に詳しくただで、より良い医療に貢献できる病院薬剤師になることができるわけではないと思いますし、人と関わることが得意であるだけでそれが叶うわけでもないと思います。その両方の力を兼ね備えてこそ、社会に貢献できる薬剤師になることができるのではないかと感じています。専門的な学びが増えていく中で、薬剤師になるというのは決して簡単な道のりではないと感じていますが、将来チーム医療の一員としてより良い医療を支えるという夢を追いかけて精進し続ける所存です。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに深く感謝申し上げます。至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、社会に貢献できる人材になれるよう精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

熊本大学医学部医学科 北村 心乃



この春、筑陽学園高等学校を卒業し熊本大学医学部医学科に進学しました、北村心乃と申します。この度は黒田奨学生に選出していただき誠に感謝しております。先日の入会式で黒田奨学会の伝統を再認識し、その一

員になれたことを光栄に思いました。また、さまざまな分野で活躍されている先輩方のお話や新奨学生の方々の目標を聞き、私自身も社会に貢献できるよう精進しようと決意しました。

私は将来病気で苦しむ子どもとその家族を支えることができる小児科医になりたいと考え、熊本大学医学部医学科に進学しました。幼い頃から子どもと触れ合うことが好きで、将来は子どもに関する仕事に就きたいと考えていました。さまざまな職業を調べ、子どもの心と体を支える小児科医の仕事に魅力を感じ、小児科医を志しました。熊本大学は学生全員が研究する機会を与えられる点や早くから専門科目の授業が始まる点に魅力を感じ志望しました。先日入学式を迎え、さまざまな地域から来た医師という同じ目標を持つ仲間と出会い、日々楽しく学生生活を送っております。この素晴らしい環境で学業面のみならず、内面も大きく成長できる6年間になるように努力します。また、私は大学在学中に英語力の向上と幅広い視野を養うことを目的に留学したいと考えています。グローバル化が進む現在、日本国内の外国人は増加しており、将来医師として働く際に日本語が通じない患者さんを見る機会があると思います。加えて、日本と異なる文化で生活する医師や学生と関わることで、自身の知らない世界を学び、広い視野を持った医師になりたいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学生に採用していただき、改めて感謝申し上げます。支えられていることに感謝しながら、自身の目標である小児科医になり、社会に貢献できる人材になるよう努めます。至らぬ点多々ありますが、精一杯頑張りますのでご指導、ご 鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

大阪大学基礎工学部システム科学科 久保 蒼珠



このたび、黒田奨学会の新奨学生に採用いただきましたこと、心より御礼申し上げます。私は筑紫丘高等学校を卒業し、この春、大阪大学基礎工学部システム科学科に進学いたしました。歴史と伝統ある黒田奨学会、そして瑞

藤会の一員となることができたことを大変光栄に感じています。この名に恥じぬよう弛まず精進してまいります。また、黒田奨学会での研修会や交流会を通じ、各分野で活躍されている先輩方や仲間たちと交流を深めることで視野と知見をさらに広げることのできる機会とできることをとても楽しみにしています。

私の目標は、大学でロボティクスや人工知能、システム科学を学び、その知識を活かして革新的なシステム開発をすることで人々の暮らしを豊かにすることです。特に私が現在興味を持っているのは「人間拡張」と呼ばれる分野であり、これはVRやAR、ロボティクス等の先端技術によって、人間の知的・身体的能力を強化・拡張するものです。近年、このような人間能力の自由な拡張を可能にする技術は急速に発展しており、チャットGPTに代表される知的支援に加え、身体能力や人間の存在そのものにかかわる強化技術も登場しています。この技術を既存のスポーツに応用することによって、競技性や安全性を向上させるだけでなく、新たなスポーツ種目の創出することでスポーツ界を盛り上げたいという思いがあります。さらに、高齢者のけがや老化で低下した能力の補完をすることで、日本の超高齢社会で引き起こされる様々な社会問題を解決したいです。

大学生活では講義や課題に主体的に取り組むことはもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、各種イベントへの参加など課外活動にも積極的に挑戦し幅広い価値観に触れたいと考えています。多様な視点を身につけることで、複雑化する現代社会の課題解決に柔軟に対応できる人材へと成長していきたいと思っています。

最後になりますが、黒田奨学会の皆様のご支援に改めて深く感謝申し上げます。今後またゆまぬ努力を重ね、社会に貢献できる人材となれるよう精一杯励んでまいります。

佐賀大学医学部看護学科 黒柳 舞美



福岡中央高等学校を卒業し、今春、佐賀大学医学部看護学科に進学しました。黒柳舞美(くろやなぎ まいみ)と申します。この度、この誇ある黒田奨学会・瑞藤会の一員となれたことを大変栄誉な

なことと考えています。ありがとうございます。高齢者人口の増加に伴い健康寿命をいかにして延伸させるかが注目される現在、保健師という日本独自の職種の役割は今後ますます重要になると考えています。そのため私は、行政保健師として地域の予防医療に貢献できる人材になることを目指します。保健師は、科学的根拠に基づいた保健指導を行うための専門知識の習得はもちろん、提供した知識を相手が受け入れ、実際に行動を変えてもらえるよう促さなければならず、コミュニケーションや共感を始めとした対人関係能力が求められます。このためには多くの人と関わりながら実践的に学ぶ経験が必要で、大学では、演習・実習形式の授業が多く、それを通じて能力を磨いていきます。また、保健指導では多職種との連携も活発で、最近では「ナッジ」と呼ばれる手法を取り入れたシステム構築が注目されています。ナッジとは、人の行動を自然に促すような働きかけのことを指します。これを活用するためにAI関連の技術者と連携して、健康診断の低受診率の改善などの課題を改善しようとする取り組みで、様々な市町村や団体での事例が報告されています。具体的には、例えば個人の行動パターンや嗜好、性格などの膨大なデータをもとに将来起こり得る健康リスクを予測し、それに応じた健康診断の勧奨方法をAI技術を用いて選定して、この結果をもとに保健師が健診未受診者に対応することで、受診率が向上しているというものです。このように、保健師は多職種と協働しながら予防医療を推進する場面が今後さらに増えていくと考えています。このため私は、今後の大学生活では専門分野以外の人とも接する機会を多く持ち、私自身の視野、知見を広げていきたいと考えています。黒田奨学会の研修会では、医療以外の様々な分野で活躍されている方のお話を聞くことができるので、積極的に参加して自身の成長の場としていきたいと思っています。最後になりますが、黒田奨学生に採用していただいたこと、改めて感謝

申し上げます。ここで得られる経験を活かしながら、佐賀大学での学びに全力で取り組んで参ります。精一杯努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

大阪公立大学工学部電子物理工学科 小樋 和紗



この春、宗像高等学校を卒業し、大阪公立大学工学部電子物理工学科に進学する小樋和紗と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、瑞藤会の一員となることができ光栄に思います。このような恵まれた環境の中で自らを高め、また社会貢献をすべく日々努力していきます。

私は中学生の頃、アフガニスタンで用水路建設に尽力された中村哲さんの存在を知り、その生き方や姿勢に感銘を受けたことから、何らかの形で発展途上国の支援をしたいと考えていました。現在、世界で国際協力の必要性が叫ばれる中、未だ戦争は絶えず、発展途上国では十分な医療や教育を受けられない人が多くいます。また先進国が寄付した医療機器が、整備や使用の難しさを原因に大半が廃棄されている現状を知りました。私は大阪公立大学で、社会インフラや医療機器に関わる半導体や量子デバイスについて学び、現地で長く使える機器を開発するとともに、発展途上国の問題の新たな解決方法を模索していきたいです。

また専門知識にとどまらず、大学では広く学びを深めたいとも考えています。私は現在、世界史や宗教、経済に関する本を読み、世界の文化や多様な価値観を学んでいます。発展途上国での医療や教育の未発達の原因を歴史的、地理的な観点から理解することで、原因により適したアプローチができると考えたからです。大学では分野を越えた学びや国際交流の機会が多くあるので、これらを活かし、実りある大学生活を送りたいと思います。

最後に、まだ至らない点も多くありご迷惑をおかけするかもしれませんが、自らの学びを深め、精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大阪大学工学部環境・エネルギー工学科 高橋 和子



この春、福岡高校を卒業して大阪大学工学部環境・エネルギー工学科に進学いたしました、高橋和子と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、ありがとうございます。

これから、黒田奨学会や瑞藤会の皆さまのご支援を受けながら、社会に貢献する人材となるべく努力できることを、大変楽しみにしております。

私は、環境問題に取り組むことを通じて社会貢献していきたいと考えています。環境問題は、私たちの将来の生活を守るために早急に解決すべき課題ですが、その対策を進めるには、専門家による予測や評価といった環境コンサルティングが欠かせません。私たち一般の人々は十分な知識がないため、何が環境に悪影響を及ぼすのかを判断するのが難しいからです。例えば、最近話題になっているPFASについても、私は専門機関の報告をニュースで知るまで、その存在すら意識していませんでした。また、私たちが気候変動に危機意識をもつのも、海面上昇の予測など、専門家による具体的なデータがあるからです。私は将来、環境分野の専門家として、特に企業の環境対策に対し提案やサポートをする環境コンサルタントの仕事をしたいと考えています。二酸化炭素の排出量は産業部門で特に多く、企業の製品が環境に優しくなることで、消費者の環境意識や行動の変化にもつながるからです。

二酸化炭素を排出しない水力発電も、ダム建設による森林伐採などの環境破壊を引き起こす可能性があるように、環境問題は様々な事象がつながった複雑な問題です。そのため、大学の授業や奨学会の研修会を通じて幅広い知識と視野を身につけていきたいと考えています。その上で、1、2年の間に自分の専門分野を決め、3、4年や大学院ではさらに深く研究していきたいです。また、環境意識が高く、環境先進国と言われているドイツへ留学したいと思っており、そのための英語学習やドイツ語学習にも力を入れていくつもりです。

まだまだ未熟ではございますが、環境分野で社会に貢献できる人材となるべく、学業をはじめ様々なことに励んでまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部文科三類 田中 基愛



修猷館高校を卒業し、この春、東京大学教養学部文科三類に進学いたしました、田中基愛(もとあき)と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

110年という長い歴史を持つ

黒田奨学会、瑞藤会の一員となれることを大変誇りに思います。この誇りを胸に、これからの4年間、勉学に励み、社会に貢献できる人材として成長していきます。

私の社会貢献の方法は、教育分野、特に教育格差の是正に取り組むことです。教育は、個人の将来だけでなく、社会全体に大きな影響を与える重要な要素だと考えています。教育の機会が平等であれば、子どもたちは自分の可能性を最大限に発揮できますが、格差が広がると社会全体に不平等が生じ、貧困や分断が進みます。私は、このような教育格差を解消するために尽力したいと思っています。

この思いを実現するために、大学生活で意識したいことが2つあります。1つ目は、視野を広げることです。教育格差の解消には、教育学だけでなく、経済や政治、社会学、科学技術など、さまざまな分野が関わっています。大学での学び、そして研修会などでの黒田奨学会の皆さんとの合流通じて、これらの視点を学び、問題に対する多角的なアプローチを身につけたいと考えています。

2つ目は、勇気を持って新しいことに挑戦することです。大学生活には多くの自由な時間があり、これらを有意義なものにするためには新しい経験を積むことが大切だと考えています。具体的に何をするかはまだ未定ですが、海外留学やインターンシップ、ボランティア活動などに挑戦し、多様な経験を得たいです。

黒田奨学会・瑞藤会の皆様の学習面、経済面での支援への感謝を忘れることなく、社会に貢献できる人材となれるように精進して参ります。大学に入学したばかりの未熟者ではありますが、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

同志社大学文学部英文学科 田中 優沙



この春、福岡高等学校を卒業し、同志社大学文学部英文学科に進学いたしました田中優沙と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

歴史ある黒田奨学会および

瑞藤会の一員となれましたことを大変光栄に思うとともに、多方面で活躍されている先輩方との交流の機会を得ることができ、とても心強く感じています。黒田奨学会の名に恥じぬよう、日々精進してまいります。

私は、大学で英語という言語だけでなく、その背景にある歴史や文化、人々の生活に至るまで、幅広い視野で学びを深めていきたいと考えています。英語は単なるコミュニケーションの手段ではなく、その国や地域の価値観や社会の在り方を映し出すものであると感じています。そのため、英語文学の作品を読んだり、映像作品を見たりする際には、時代背景や作者の生きた環境にも目を向け、言葉の奥にある意味や考えを読み取れる力を身に付けたいと思っています。

また、在学中には実際に外国に留学し、現地の人々と直接触れ合うことで、教室では得られない生きた英語や文化を体感したいと考えています。そのため、グローバルボランティアや海外インターンシップの機会を提供する団体に所属し、国際的な課題に触れる機会も得ました。異なる価値観に触れることで、自分自身の視野を広げ、多様性を尊重する姿勢を養いたいです。さらに、自立心や思考力も身に付け、将来の進路にも生かしていきたいと思っています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに改めて深く感謝申し上げます。大学四年間では様々な活動に挑戦して、多くの人と関わりながら、自己成長に繋げていきたいと考えております。まだまだ至らない点も多くあると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京科学大学工学院 中川 英知



筑紫丘高等学校を卒業し、この春、東京科学大学工学院に進学いたしました中川英知と申します。この度は、名誉ある黒田奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。歴史のある黒田奨学会及び瑞藤会の一員

となることができ、大変光栄であるとともに、日々の学習に励もうと身が引き締まる思いです。

私は、情報系に興味があり、情報理論やアルゴリズムについて学び、研究者となり、アルゴリズムによる問題解決を通して、社会に役立てていきたいと考えています。これからの情報化社会において、コンピュータによる問題解決は必要不可欠です。コンピュータが動いているところでは全て、アルゴリズムがあります。コンピュータのハードも進歩していますが、アルゴリズムの改善がなければ、現実的な時間で問題を解決をすることはできません。

私が現在特に興味を持っているのが最適化アルゴリズムという分野です。現実的な問題を考えると、問題の設定が複雑になり、現実的な時間で厳密に最善の解を求めることができないということがあります。そこで、厳密に最善ではないが、実用上十分良い解を現実的な時間で求めようというのが最適化アルゴリズムです。社会の多くの課題は複雑な制約の中で、どのような選択をするかという最適化の問題です。アルゴリズムの開発、改善によって今まで答えを出すことができなかった問題に答えを出すことや技術の一般化につながっていき、よりよい社会を目指すことができます。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに深く感謝申し上げます。学びを実際に社会に適応し、役立てていくためには、自分の専門だけでなく幅広い分野の教養が必要となります。大学生活が実りのあるものになるよう多くのことに興味を持って学業に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部文科三類 檜崎 蓮



今春、修猷館高校を卒業し、東京大学教養学部文科三類に進学いたしました、檜崎蓮と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生にご採用くださり、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会、及び瑞藤会の一員

となったことを大変光栄に思うと同時に、高い志を持つ先輩方や新奨学生の方々と出会い、身の引き締まる思いを感じております。

私は言語学に興味があり、後期課程では文学部の言語学専修課程に進学したいと考えております。特に、言語によって世界を分節化する、という言語の特性に惹かれたため、意味論や言語哲学といった分野を深く学びたいと考えております。前期教養課程では、多様な学問を幅広く学ぶことができるリベラルアーツ教育を活用し、複雑な社会に対応し得る教養を身につけるとともに、自らの専門分野を明確化していく所存です。言語学は、対話型生成AIの開発が急速に進む昨今、注目されている学問のひとつです。言語学という視点から社会のために自分に何が果たせるのかを、大学生活を通して掘り下げていきたいと考えております。

私が言語に興味を持つようになったきっかけは英語の学習でしたが、それは同時に、海外に目を向ける契機にもなりました。高校では地理や世界史などの授業を通して、南北問題や南南問題に対する問題意識が強まりました。大学では、積極的に海外研修や交換留学に参加し、将来の社会貢献の形を探索していく所存です。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに、改めて心より感謝申し上げます。研修会などを通して先輩方や同期の方々と交流し、自分の成長に繋げていきたいと思っております。黒田奨学会の名に恥じぬよう日々励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学文科一類 花原 美咲



筑紫丘高等学校を卒業し、今春、東京大学文科一類に進学いたしました、花原美咲と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員にな

れましたことを光栄に思いますとともに、身の引き締まる思いです。

私は、国際政治や国際法と言語学に興味があります。国際政治や国際法を学びたいと思っているのは、国内外のニュースを見聞きする中で、何が世界で起こっているのかを知りたいという気持ちが高じ、国際政治と国際法を学ぶことにより、複雑で流動的な現在の世界がどう動いているのかを理解したいと思っているからです。また、言語学に興味をもった理由の一つに、高校生の時に『源氏物語』の英語版を読んだ経験があります。日本語と英語では思考の仕方が異なり、日本語は文脈依存をする傾向が強く、詳細を事細かに説明しないのに対し、英語は文脈に依存せずに内容を詳らかにするというのを感じました。そのような経験を踏まえて、学問としての日本語について考えていくうちに、日本語は曖昧さや余韻を残し、話をしている相手を追い詰めない表現をとるという点で、非常に美しい言語だと感じる反面、日本語の持つ不確定さが相手に誤解をさせ著しい齟齬をきたす可能性もあるのではないかという問題意識を持つようになりました。そのため、大学では日本語と他の言語の差異についてより詳しく学んでみたいと思っています。

まだ将来について明確な方向性が決まっているわけではありませんが、大学で学ぶ国際政治や国際法、言語学を社会貢献に活かせる仕事がしたいと考えております。そのために幅広く知識を身につけられるよう勉学に励み、また社会経験を積むために留学などにも積極的に挑戦したいと思っています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、多大なご支援をいただけますことに改めて深く御礼申し上げます。至らない点も多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

佐賀大学医学部医学科 樋口 士裕



この春、修猷館高等学校を卒業し、佐賀大学医学部医学科に進学いたしました樋口士裕と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学

会、そして瑞藤会の一員に慣れたことを大変光栄に感じるとともに、身が引き締まる思いです。多くの分野で活躍される先輩方との交流を大切にしながら、自分も社会に貢献できる人材となるべく日々の勉学に力を入れていきたいと思っています。

私は将来、患者さんがなんでも相談できるような親しみやすい総合診療医になりたいと思っています。AIが発達し、医療の現場においても利用が拡大されている今日、医師としてのあり方が問われています。例えば、理化学研究所と国立がん研究センターの共同研究により開発されたDeep Learningを活用した早期がんの自動範囲診断AIは、専門医に比べ、感度に優れており、特異度についても専門医の範囲診断に迫る性能を発揮しています。

(参考：https://www.riken.jp/press/2023/20230606_1/?utm_source=chatgpt.com) によって、正しい知識を持って、正しく診断することだけが良い医師の条件ではなく、患者さんを安心させるコミュニケーションという人間にしかできない能力が重要視されてきています。そのため、私は大学生活の中で医療に関する知識、技術を習得することはもちろんですが、様々な年齢、性別、出生の方と関わりを持つことで、人間性及びコミュニケーション力を向上させることを大きな目標にしています。短期留学やボランティア活動、講演会などに積極的に参加し、新たな出会いを大切にして、将来に繋げていきたいと考えています。

最後になりますが、至らない点も多くあり、奨学会の先輩方や理事の方々にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、黒田奨学生としての自覚と誇りを持ち、精一杯勉学に励んでまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学文学部人文学科 藤井 南美



この春、筑紫丘高校を卒業し、九州大学文学部人文学科に進学いたしました藤井南美と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員と

なれたことを大変光栄に思うとともに、これから始まる大学生活に向けて身の引き締まる思いです。先日行われた黒田奨学会の入学式では、社会貢献という志を同じくした奨学生や先輩方のお話を伺うことができました。このような環境で学ぶことのできる機会に感謝するとともに、私も社会に役立つ人材になれるよう日々精進していくことを改めて固く決意しました。

私は、大学で古典文学や言語文化など国語分野を研究し、将来的には国語教師として、教育の立場から社会貢献をしていこうと考えています。私は、小学生の頃から国語に強い関心があり、源氏物語や落窪物語、和泉式部日記を契機に古典の世界に魅了されました。現代の我々がコロナウイルスなどの感染症や紛争問題に直面するように、先人たちも天然痘や戦に直面し、そのたびに乗り越えてきた姿を古典の世界から知ることができます。そして、ジェンダーという言葉もまだ無かった時代に、自らの性としての生き方に苦悩した人々の姿も現代の我々に通じるところがあります。そのほかにも、遥か昔を生きた先人たちの言葉は、日本語の美しさや日本人の精神性、日常や自然への豊かな感受性など、現代の我々が情緒を培い未来を拓く上で大切なことを伝えてくれます。だからこそ、どれだけ時代が進み、技術が発展しても先人から学ぶこと、国語を学ぶことの意義は変わらないのです。

私はこの日本の誇るべき文学作品を次世代に継承するとともに、教師として人材育成に力を注ぎたいと考えています。そのために私は、これからの大学生活を通して学識を深め、人間性を涵養していけるよう自己研磨を続けて参ります。そして、教師として子どもたちに一つでも多くのことを伝えられるように、留学を含め新しい経験にも積極的に挑戦し、幅広い視野を培っていく所存です。

最後になりますが、黒田奨学会に採用していただきましたこと、改めて感謝申し上げます。まだ

まだ未熟で至らない点多々ありますが、先輩方や他の奨学生との交流を大切にし、刺激を受け、さらに成長していけるよう努力を重ねて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします

広島大学工学部第一類(機械・輸送システム) 藤原アレックス偉智朗



この春、福岡県立宗像高等学校を卒業し、広島大学工学部第一類(機械・輸送システム)に進学いたしました、藤原アレックス偉智朗と申します。

この度、黒田奨学会の奨学生に選出いただきましたこと、心より光栄に存じます。ご支援に深く感謝するとともに、黒田会および瑞藤会の一員として恥じぬよう、今後は一層精進し、他の奨学生の皆さんと切磋琢磨してまいりたいと考えております。

私は将来、ヒューマノイドロボットの開発に携わることを志しています。現在、アメリカのボストン・ダイナミクス社をはじめとする世界中の企業や研究機関が、その研究開発にしのぎを削っており、誰が最初に商品化へと結びつけるか、激しい国際競争が展開されています。

多くの企業は、工場などの屋内環境を想定し、人工知能を搭載した完全自律型ロボットの開発を目指しています。確かに、生産業という巨大な市場での応用は、経済的にも大きな可能性を秘めています。しかし私は、ヒューマノイドロボットが真に価値を発揮するのは、人間の代替ではなく、人間以上の能力を発揮できる場面だと考えています。

まずは、人間の動きを忠実に再現できるロボットを開発し、人が立ち入ることが困難な危険地域における救助活動や研究調査を、遠隔操作によって可能にすることを目指しています。これにより、従来では接近すら困難だった被災地や紛争地にもロボットが赴き、救える命が確実に増えると信じています。また、火山地帯や南極、深海など、過酷な環境下での調査・研究も格段に進展し、世界の科学技術全体の底上げにつながると期待しています。

そして最終的には、ロボットが人間と同じ自由度で動けるようになった段階でAIを搭載し、そ

れまで人間の操縦によって行っていたことを口頭の指示だけでこなし、そのうえ家事や育児のサポートもできる汎用性の高いヒューマノイドロボットが存在する未来の実現を目指しています。私は、ロボットエンジニアになるという幼い頃からの夢を実現するために、これまで様々な経験を積んでまいりましたが、まだまだ道半ばです。理想とする未来に一步でも近づくため、今後も努力を惜しまず邁進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

京都大学文学部 宮里 愉楽



このたび、黒田奨学会の奨学生としてご支援をいただくこととなり、心より御礼申し上げます。

地元・福岡の多くの優れた学び手と共に、これまでより遥かに高度な学問の道を歩めることに、緊張とともに、

大きな喜びを感じております。

私は今年四月より、京都大学文学部に進学し、現在は主に一般教養科目を学んでいます。哲学や歴史学といった専攻分野にとどまらず、幅広い知見を得るべく、励んでおります。

また、講義の枠を超えて、学内のサークルやアカデミーにも参加し、多角的な学びの機会に触れることで、より豊かな学習環境を築いています。このように充実した学生生活を送ることができているのは、黒田奨学会からのご支援のおかげであり、心より感謝しております。

京都大学は、自由な思索を重んじる学風のもと、国内外の思想に触れられる場であり、哲学を学ぶ場として極めて恵まれた環境です。かつて京都学派が生まれたこの地で、私は受動的な学びを超え、自らの哲学をさらに発展させたいと考えています。そして、将来的には私の哲学を「社会の哲学化」という私の夢が成し遂げられるための糧としたいと願っています。

黒田奨学会からのご支援は、経済的な側面だけでなく、学問に対する覚悟と責任を再確認させてくれる、大きな精神的支えでもあります。

奨学生としての自覚を常に心がけ、いただいた貴重な機会に深く感謝しつつ、これからも挑戦を恐れずに、しかし堅実な意思をもって学び続けて

まいります。

佐賀大学医学部医学科 山口 晃広



修猷館高校を卒業し、この春から佐賀大学医学部医学科に進学することになりました、山口晃広と申します。この度は黒田奨学生として採用して頂き、ありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、瑞藤会の一員となる

ことができ、非常に光栄に思うと共に、身の引き締まる思いです。他の奨学生の方から刺激を受けるとともに、他の奨学生の方に刺激を受けてもらうことができるような大学生活にしていきたいと思っています。私は将来医師になり、怪我や病気で不安に思っている患者さんに安心して治療を受けてもらえるような治療プランを示し、説明できる整形外科医になりたいと思っています。そのためには、当たり前ですが、患者さんの気持ちを理解することが必要です。もちろん、患者さんであっても、他人の思っていることを完全に理解することは不可能でしょうが、様々な境遇や価値観の人と関わっていくことで他人の思っていることをある程度は推測できるようになるのではないのでしょうか。黒田奨学会には様々な分野の先輩がいらっしゃるので積極的に交流させていただきたいと思っています。

佐賀大学の特徴として1、2年次から医学の専門的な内容を学ぶことができ、また、大学病院での実習や、医療面接の実習などができることがあり、その点が魅力的だったので佐賀大学に進学しました。この利点を最大限に活用して、理想の医師になるために努力していきたいと思っています。

黒田奨学金を通じて、私はより一層学業に励み、医師として社会貢献するための準備を進めて参ります。まだまだ未熟で、至らない点があるかとも思いますが、精一杯努力をし続けますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学工学部Ⅲ郡 山本 嵐士



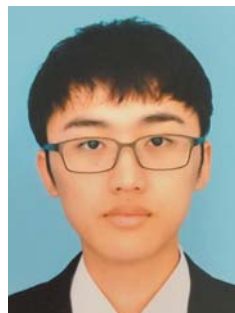
この春福岡大学附属大濠高等学校を卒業し、九州大学工学部Ⅲ郡に進学致しました山本嵐士と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、並びに瑞

藤会の一員として選んでいただいたことを大変光栄に思うとともに身の引き締まる思いです。優秀な先輩方と交流させていただくことができる機会を存分に活かし、社会に貢献する人材となれるよう日々精進してまいります。

私は将来、航空機の技術開発、特に環境に与える負荷を小さくする技術の開発に携わりたいと考えています。現在の航空業界は先人たちの叡智の成果であり、徹底的な運輸とエネルギーの効率化が図られています。しかし環境問題への対策や持続可能性が重要視される近年では特に、大量のCO₂を排出する一方で物流などの面で生活に欠かせない航空産業に対し技術革新が求められています。部品の形状や重さ、燃料の最適化に限らず、SAF というバイオ燃料の普及や旅客機の電動化など現在新技術の研究開発が進められており、私はこのような部分で技術開発に携わることで航空業界、ひいては社会全体に貢献する人材となることを目指しています。大学生活については九州大学工学部で2年次に行われる学科配属において希望の学科に進むことができるよう勉学に励むだけでなく、様々な考えに触れ知見を広げるため意識的に読書をしたり他学部の学生や留学生と交流したりしていこうと考えています。また大学生のうちに留学を経験し、異なる価値観に触れたりコミュニケーション能力を高めたりしたいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことを改めて深く感謝申し上げます。まだまだ至らない点が多く先輩方、理事の方々にはご迷惑をおかけすることも多いと存じますが、支えてくださる方々の期待に応えることができるよう精一杯励んで参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東北大学工学部電気情報物理工学科 電子工学コース 大田 透人



この春、久留米工業高等専門学校を卒業し、東北大学工学部電気情報物理工学科電子工学コースに編入いたしました、大田透人と申します。

このたび、歴史と伝統ある黒田奨学会の奨学生に採用していただき、心より感謝申し上げます。福岡県で生まれ育った私にとって、筑前ゆかりの黒田家から続くご支援を賜れることは格別の喜びであり、「先人から託されたバトンを次世代へ繋ぐ責務」を強く意識する契機となりました。新たな環境で挑戦を続ける私にとって、本奨学会への採用は力強い励みとなっております。

私は「人の脳を電子機器で再現し、エネルギー効率の高い知能を実現する」ことに強い関心を抱き、低電力スパイク型ニューラルネットワーク(脳のようにスパイク信号で情報処理を行うニューラルネットワーク)やスピントロニクス素子(電子のスピンを利用した次世代デバイス)などを用いたニューロモルフィックハードウェアの研究に取り組んでいます。

東北大学では、第一線の研究者の方々と議論を重ねながら回路設計と神経科学を架橋する学際的な知識を磨き、学部在籍中に研究成果を外部へ発信し、将来的には国際学会でも発表できる水準へ高めることを目標にしています。将来は、自らの研究成果を国際的な環境でさらに深めるため、米国大学院への進学を目指し、ニューロモルフィック計算技術(脳を模倣した情報処理)の発展に貢献したいと考えています。そのため、英語運用能力の向上や海外研究室との共同研究にも積極的に挑戦し、多様な専門家と協働できる力を養ってまいります。

今後は、いただいたご支援に報いるべく、日々の努力を積み重ね、研究活動を通じて社会に貢献できるよう邁進してまいります。また、先輩方との交流を通じて視野を広げ、将来的には地元九州にも革新的な技術と人材を還流させることで、恩返しを果たしたい所存です。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学工学部融合基礎工学科・九州沖縄 9高専連携教育プログラム 北岡 隼斗



この度、黒田奨学会に新規奨学生として採用して頂きました、北岡隼斗と申します。歴史ある黒田奨学会の一員になれたこと、大変嬉しく思っています。

この黒田奨学会には他分野を専門的に学ばれている方が多く在籍されており、研修会が毎年複数回にわたり開催されるため、私には見識の無い様々な分野の研究発表を拝聴したり、他分野の視点での意見や考え方を伺ったりして、自らの知見を更に深める機会が得られることを楽しみにしています。

また、海外研修や海外への留学、国際学会での発表に必要な経費も支援して頂けると知り、金銭的に今まで参加を躊躇っていた国際的な取り組みへの参加が可能になるので心より感謝しております。英語学習により一層熱心に取り組み、世界で働けるようなグローバルな人材を目指して邁進していきたいと思っています。

さて、私はこの春、有明工業高等専門学校を卒業して九州大学と九州にある九高専の専攻科との連携教育プログラムに進学しました。

この特色として、高専と九州大学の両校の授業を受けつつ、両校の研究室に同時に在籍して研究を進められるため、より学際的に学ぶことが可能になります。このプログラムは近年開始されたもので、私はその三期生になります。どちらの授業、研究も疎かにすることが無いよう弛まぬ努力を続けていこうと考えています。

私の専門分野は機械工学であり、高専本科在学時には、ニアドライ加工における基礎研究というテーマで研究を行っていました。九州大学では、先進宇宙ロケット工学研究室への配属が決まっています。この研究室では、人工衛星に搭載される電気推進機や有人惑星間航行を目的とした核融合ロケットを中心に、次世代宇宙推進に関する研究が行われています。これらの研究は、私が現在最も興味を抱いている分野であり、研究には使命感を持って熱心に取り組もうと考えています。

黒田奨学会の一員になれたことを最大限活かせるよう、自ら積極的に奨学会の皆様とコミュニケーションをとり、交流をしていきたいと思っています。

これから、何卒よろしくお願い致します。

熊本大学工学部半導体デバイス工学課程 橋本 琉馬



久留米工業高等専門学校を卒業し、この春から熊本大学工学部半導体デバイス工学課程に進学しました橋本琉馬と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。歴史ある

黒田奨学会及び瑞藤会の一員となることができるととても光栄であるとともに身の引き締まる思いです。黒田奨学会の名に恥じぬよう奨学生期間中に今まで以上に自分を研磨していくことに加えて、高い志を持った奨学生の皆さんと交流し鼓舞しあっていければと思います。

私が進学した半導体デバイス工学課程という課程は昨年度から熊本大学工学部に新しくできた課程です。高専在学中に起こった新型コロナウイルスに関連した半導体不足のニュースや、熊本県はここ数年半導体産業が盛んになりつつあること、国産半導体分野の衰退、そして熊本大学が半導体の専門家を集めて新しい課程をつくろうとしていることなどを知って本課程に進学しました。この課程で勉学に励み、国内半導体メーカーの発展に寄与することができれば、多種多様なデバイスの根幹である半導体の発展に伴い産業全体の発展に寄与できると考えています。

奨学生として生活するのは大学生活の間ですからおよそ数年間です。昨年度まで5年間在籍していた高専も今思い返してみるとあっという間でした。ですから一日一日を無駄にせず一歩ずつでも自らを研磨していこうと思います。また、勉学だけではなく、様々なことにチャレンジしようと考えています。たくさんチャレンジして見聞を広げることで視野を広げ、研究課題への新たなアプローチ方法を見つけることができるようになります。

最後になりますが、未熟者の私ですが精いっぱい努力しますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

トピックス

●九州大学大学院の横山健さん、東京大学大学院の松田仁さんが、研究会発表で優秀賞を受賞！！

九州大学大学院システム情報科学府
博士課程1年 横山 健

この度、光栄なことに、「日本オペレーションズ・リサーチ学会九州支部九州地区におけるOR若手研究交流会2024」にて、優秀発表賞をいただくことができました。日頃よりご指導、ご支援をいただいている黒田奨学会の皆様のおかげで、研究に集中でき、良い発表ができたと思います。本当にありがとうございます。

本研究会は、九州地方の大学や研究機関に所属する若手研究者が一堂に会し、主に最適化やアルゴリズムに関する研究成果を発表し合う学術的なイベントです。本年度は25件の発表が行われ、その中で特に優れた研究発表を行った6名に「優秀発表賞」が授与されました。この賞は、独創性、研究の深さ、発表内容の明確さなどが評価基準となり、受賞は非常に名誉なことです。

私の発表タイトルは、「オンラインL凸最小化」でした。概要としては次の通りです。

「需要予測や在庫管理は、担当者の経験や勘に頼る部分が多いため、AIを用いて属人化しない仕組みを作ることが重要です。しかし、需要予測や在庫管理は意思決定の選択肢が組合せ的であるため、既存のAIでは意思決定に膨大な時間を必要とします。我々はこの問題を部分的に解決する新たな枠組みを提案し、我々のアルゴリズムがオーダーの意味で最適であることを示しました。」

また、私は博士課程への進学を考えており、今後も研究に集中し、得られた成果を世の中に発表することで社会に貢献したいと考えています。



(令和6年10月19日)

東京大学大学院工学系研究科
修士課程2年 松田 仁

2024年12月に神戸大学にて開催された、学術変革領域研究（A）アシンメトリが彩る量子物質の可視化・設計・創出 トピカルミーティング「アシンメトリ量子物質における交差相関の開拓」において、“First-principles study of spin-orbit coupling-free responses in exotic collinear antiferromagnet”というタイトルでポスター発表を行い、優秀賞を受賞しました。発表内では、磁気構造によって非自明に対称性が破れる現象に着目し、従来型の反強磁性体で現れる非線形応答について議論を行いました。

(令和6年12月7日)



行 事 報 告

●令和6年度 奨学生卒業記念会・瑞藤会総会

平成7年3月20日、黒田奨学会 令和6年度卒業記念会ならびに瑞藤会総会がホテルオークラ福岡にて開催されました。

卒業式は、卒業生18名(学部生11名、院生7名)をはじめ現役奨学生、奨学会役員、事務局員含めて総勢97名が参加しました。式は理事長挨拶で始まり、黒田長高総裁の祝辞と記念品贈呈、そして卒業生各人からのお礼の言葉が披露され、厳粛に執り行われました。

続いて開かれた祝宴では、昨年まで教育指導担当の常務理事としてご尽力いただいた、岡本順子先生の激励の言葉と乾杯のご発声で和やかにスタートしました。歓談の合間には、卒業生たちが、長高総裁のお席に次々と伺い、感謝の気持ちと今後の抱負を報告していました。最後はOBの塚本恭平さん(令和5年東京大学大学院卒、LINE ヤフー株式会社)と、同じくOBで、総会に先立って記念講演をしてくれた松本凌佳さん(令和年東京大学卒、レオス・キャピタルワークス株式会社)から激励の言葉を頂戴し午後8時に終了しました。



卒業記念会



総裁挨拶



卒業生挨拶

●令和7年度 奨学生入会式

令和7年度の奨学生入学式は令和7年3月20日(木)14時より、ホテルオークラ福岡3Fオークルームにて行いました。

今年度の新入生は、学部新入生が26名、学部から引き続き修士課程、博士課程に進んだ学生7名、特定枠修士生9名の計42名となりました。

総裁の黒田長高様・由佳子様ご夫妻にもご出席いただき、役職員合わせて総勢59名が出席しました。式典では理事長挨拶、総裁挨拶に続いて、先輩を代表して、九州大学工学部を卒業し、引き続き同大学院システム生命科学府に進む工藤雅人さんから歓迎の言葉が新入生に送られました。その後、新入生が各自、氏名と進学先を紹介し、最後に新入奨学生を代表して、大塚拓己さん(東京大学理科一類)が黒田奨学生となった喜びと決意を力強く披露してくれました。



入会式全体風景



先輩挨拶



新入代表挨拶

令和7年度 新奨学生
学部生

氏 名	出 身 校	大 学
青 柳 洸 哉	嘉穂	広島大学 生物生産学部 生物生産学科
朝 山 眞 佳	筑紫丘	大阪大学 工学部 応用自然科学学科
安 樂 音 乃	筑紫女学園	九州大学 工学部 IV群
上 田 景 子	大濠	佐賀大学 医学部 医学科
王子田 俊太郎	福岡	東京大学 理科Ⅲ類
大 塚 拓 己	修猷館	東京大学 理科Ⅰ類
大 場 咲 和	福岡	熊本大学 薬学部 薬学科
北 村 心 乃	筑陽学園	熊本大学 医学部 医学科
久 保 蒼 珠	筑紫丘	大阪大学 基礎工学部 システム科学科
黒 柳 舞 美	福岡中央	佐賀大学 医学部 看護学科
小 樋 和 紗	宗像	大阪公立大学 工学部 電子物理工学科
高 橋 和 子	福岡	大阪大学 工学部 環境エネルギー工学科
田 中 基 愛	修猷館	東京大学 文科Ⅲ類
田 中 優 沙	福岡	同志社大学 文学部 英文学科
中 川 英 知	筑紫丘	東京科学大学 工学院
檜 崎 蓮	修猷館	東京大学 文科Ⅲ類
花 原 美 咲	筑紫丘	東京大学 文科Ⅰ類
樋 口 士 裕	修猷館	佐賀大学 医学部 医学科
藤 井 南 美	筑紫丘	九州大学 文学部 人文学科
藤原 アレックス偉智朗	宗像	広島大学 工学部 第Ⅰ類学科
宮 里 愉 樂	自由ヶ丘	京都大学 文学部 人文学科
山 口 晃 広	修猷館	佐賀大学 医学部 医学科
山 本 嵐 士	大濠	九州大学 工学部 Ⅲ群
大 田 透 人	久留米高専	東北大学 工学部 電気情報物理工学科
北 岡 隼 斗	有明高専	九州大学 工学部 融合基礎工学科
橋 本 琉 馬	久留米高専	熊本大学 工学部 半導体デバイス工学課程

大学院生（学部・修士より継続支給および大学院特定枠新奨学生）

谷 口 彰	D1	九州大学大学院 理学府 物理学専攻
中 橋 凜太郎	D1	九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻
横 山 健	D1	九州大学大学院 システム情報科学府
工 藤 雅 人	M1	九州大学大学院 システム生命科学府
仲 西 優 貴	M1	東京大学大学院 情報理工学系研究科 システム情報科学専攻
宮 崎 結 生	M1	九州大学大学院 システム生命科学府

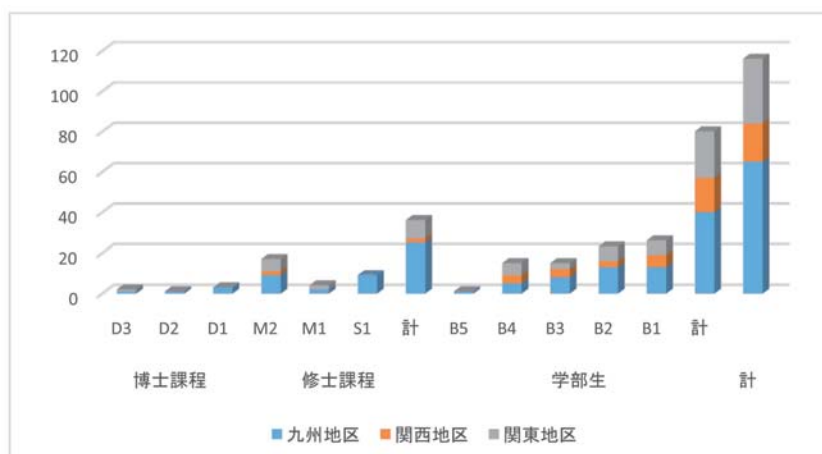
山 本 颯 真	M1	東京大学大学院 工学系研究科 応用化学専攻
朝 岡 翔 大	M1	九州工業大学大学院 情報工学府 情報創成工学専攻
池 田 大 樹	M1	九州大学大学院 理学府 物理学専攻
今 泉 奈 々	M1	九州大学大学院 生物資源環境科学府 資源生物科学専攻
栗 野 陽 平	M1	九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻
清 水 貴 弘	M1	九州大学大学院 マス・フォア・イノベーション関係学府・システム情報科学係
中 村 大 輝	M1	九州工業大学大学院 情報工学府 情報創成工学専攻
檜 崎 淳 也	M1	九州大学大学院 工学府 材料工学専攻
福 田 航	M1	九州大学大学院 システム情報科学府 情報理工学専攻
松 瀬 真 未	M1	九州大学大学院 経済学府 経済システム専攻

令和 7 年度 奨学生地区別分布

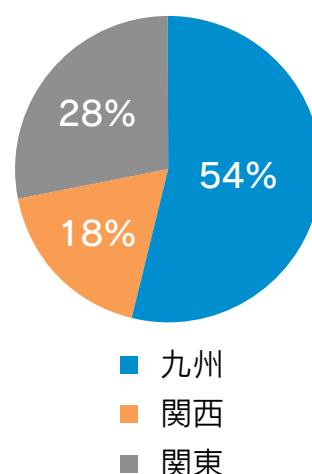
※ S = 特定枠

学 年		九州地区	関西地区	関東地区	全地区
博士課程	D3	1	0	1	2
	D2	1	0	0	1
	D1	3	0	0	3
修士課程	M2	9	2	6	17
	M1	2	0	2	4
	S1	9	0	0	9
	計	25	2	9	36
学 部	B5	1	0	0	0
	B4	5	4	6	15
	B3	8	4	3	15
	B2	13	3	7	23
	B1	13	6	7	26
	計	40	17	23	79
合 計		65	19	32	115

学年別分布



地区別分布



●令和6年度 九州地区研修会 後期第2回

令和6年度の九州地区研修会の後期第2回を、令和6年11月9日に黒田奨学会事務局にて開催しました。発表は、博士課程の学生1名、修士課程3名、学部生8名で、最後に、パリ工科大学に留学中の才田隼輔さんがZOOMで発表してくれました。

奨学生参加者：九州地区発表者12名、オブザーバー参加18名

参加役員：伊達理事長、重藤常務理事、小田部理事(教育指導担当)、安川理事(教育指導担当)、渡邊理事(教育指導担当)



研修会に参加しての感想

九州大学人間環境学府空間システム専攻 修士1年 神田 楓華

11月9日に行われた九州地区後期第2回研修会・発表会に参加させていただきました。今回の研修会は私にとって2回目の参加で、前回是他分野の発表に圧倒され、ついていくのに精一杯でしたが、今回は発表者の皆さんの発表のやり方、内容がさらに洗練されていたこともあって、前回よりも理解できたと感じ、皆さん、そして自分の成長を実感する機会となりました。次回はさらに、沢山良い質問ができるレベルにまで到達したいと考えています。

今回の発表の中でも、自分の研究や専門分野とのつながりを考えることが出来た、3つの発表について感想を記させていただきます。

まず、藤本さんの「人の行動データにおけるプライバシー保護」に関する発表です。私の研究室でも省エネのために人の行動変容を促進するアプリ開発を行っており、そこで行動データを活用しています。また、企業では個人の快適な温度やストレスレベルなどを、行動データや心拍数からAIを使って分析し、快適な環境を提供する取り組みが進んでいます。これらの行動データとAI分析を組み合わせることにより、省エネを促進したり、快適性を高めるといった動きは、環境・設備分野で大変注目され、研究や開発が加速しているテーマです。しかし藤本さんの発表を通じて、こうした行動データが活用される一方で、そのプライバシ

ー保護については、建築分野において見落とされているのではないかと危機感を持ちました。今後はこの視点も意識していきたいと感じます。

次に、中村さんの「ChatGPTがどうつくられたか？」に関する発表についてです。私も研究の中でプログラミングを行う際、エラーが出たときにChatGPTに質問してエラー解消の方法を教えることがあり、プログラミングコードを出力する能力の高さを実感しています。しかし、文章問題ではなく単純な計算であれば、人間よりも正確だと思い込んでいたため、ChatGPTは計算が苦手な事には驚きました。私たちが研究で使う際にも、内部的な仕組みをある程度理解しておく必要があると感じました。また、間違った答えを信じないためには、ChatGPT-4で参考にした文献を教えてもらい、情報源まで使い手が確認することが有用だと思いました。

最後に、庄田さんの「国同士の移動を含むような海運でのCO₂排出量を算出する手法」に関する発表です。私の研究でもCO₂排出量の原単位を用いていますが、それを算出すること自体が難しいと感じています。庄田さんの研究では、国際的な海運におけるCO₂排出量の算出が行われ、国同士のつながりが考慮されており、さらに国同士の責任割合の評価についても関心を持ちました。また、将来的には予測手法も検討していくとのお話があり、その具体的な方法についてもぜひお聞きしたいと思いました。

今回の研修会を通して、次の研修会に向けた目標も明確になりました。今回学んだ内容を活かしながら、さらに成長して次回に臨めるよう、授業や学会発表を通じて精進していきたいと思っています。

佐賀大学医学部医学科2年 中川原 歩乃佳

11月9日に行われた九州地区研修会に参加させていただきました。様々な分野に関する研究発表を聞くことができ、とても有意義な時間となりました。今回の研修会では私を含め13人の奨学生が発表を行いました。皆さんとても素晴らしい発表だったので、本来であれば全員について感想を述べたいのですが、文字数の都合上特に印象に残った方々について感想を述べたいと思います。

まず1人目は藤本さんです。藤本さんの発表は人の行動データにおけるプライバシー保護とそのアプリケーション応用についてのものでした。「データを取られてもいいけどそのデータから個人情報情報を抜かれないようにする」という考え方はとても新鮮であり、情報の守り方にはそんな方法もあるのかと勉強になりました。また、丁寧に発表を行ってあったため、情報分野に関する知識がない私でもきちんと理解しながら発表を聞くことができました。

2人目は田上さんです。田上さんは何といても見ている人の心を一瞬で掴むようなパワーポイントが魅力的でした。田上さんの発表を通して、改めて内容だけではなくパワーポイントも発表を行う上で重要な要素であるということを実感しました。また、質疑応答の際に庄田さんが田上

さんに発表内容を研究に繋げていくにはどうすればいいのかというアドバイスを行う場面がみられました。1年生が実際に学会などで発表を行っている人から意見を貰える機会はなかなかないため、この研修会が有意義な時間であることを再認識することができました。

3人目は西園さんです。西園さんは私の発表と内容が完全に被り、かつ、私が先に発表を行ってしまったためとても申し訳なかったです。ですが、私の発表の補足を組み込んだりアドリブを上手く使ったりすることで、似たような内容ではあるものの聞いている人を飽きさせない発表にしている点が本当にすごかったです。また、内容は被ってしまいましたが、今回被ったことを機に黒田奨学会で奨学生同士の繋がりをつくろうとなったためよかったのかなと思います。

4人目は庄田さんです。国際貿易に関する発表であり、研究の規模が大きいため聞いていてわくわくしました。さらに最初の導入部分が丁寧であったため、私の力不足で完全にとはいきませんでした。また、大まかに内容を理解することができました。また、庄田さんは他の奨学生の発表の際に積極的に質問をされている点が印象的でした。奨学会の強みはやはり奨学生同士の交流にあると思っているので、私も庄田さんのように質問が行えるようになりたいと思います。

九州地区研修会 後期第2回・発表抄録集

1. 人の行動データにおけるプライバシー保護とそのアプリケーション応用【ZOOM】

九州大学システム情報科学府修士2年
藤本 隆晟

Apple Watchのようなウェアラブルデバイスからはさまざまな行動データが取得可能である。しかし、そこから取得されるデータはそのユーザーのプライバシー情報を多く含んでおり、それらはあらゆる方法で容易に特定できてしまう。今回の発表では、プライバシー情報を守りつつ、私たちの身近なアプリケーションとして、行動データを利用したサービスをユーザーに提供するにはどのようなプライバシー処理が求められるのかについて紹介する。

2. 純 ω チタンの合成と機械的性質について

熊本大学大学院自然科学教育部修士1年
植木野 介子

チタンは、耐食性や比強度、生体適合性などの優れた特性を持ち、航空産業や生体用金属材料などで広く利用されています。私の研究では、これらの特性を活かし、さまざまな分野で応用が期待されるチタンについて、組織を制御しながらその疲労特性を評価しています。なお、共同研究のため詳細な内容を発表することはできませんが、四川大学から同様の組織を有するチタンに関する論文が公開されました。この論文を紹介し、軽金属の最新の研究開発について皆様に知っていただければと思います。

3. ネットワーク科学を用いた環境汚染物質の毒性影響予測

九工大学情報工学府情報創成工学専攻修士1年
三上 紗奈

ネットワーク科学とはものもののつながりを理解するために研究されている学問分野である。その中でネットワーク伝播法により、プラスチックペレットに吸着した汚染物質の毒性影響を予測することを目的として研究を行っている。今回は主に、ネットワーク伝播とはどのようなものなのかについて紹介する。

4. 緊急時におけるBLSの手順とその重要性について

佐賀大学医学部医学科2年
中川原 歩乃佳

BLSとは一次救命処置のことであり、自動車学校などで学んだ方も多いのではないのでしょうか。BLSは心肺停止に対する迅速かつ効果的な初期対応をするために重要なスキルであり、心肺停止時に心肺蘇生やAEDを使用することで生存率を大きく上げることができます。今回の発表ではBLSの意義や具体的な手順に関して詳しく説明し、皆さんにBLSの重要性を認識していただければと思います。

5. 日本のアニメ業界が危ない？

佐賀大学芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科1年

田上 心咲

日本のアニメは昔から非常に面白く、多様なストーリーや魅力的なキャラクターが多くの人々の心を引きつけています。近年では、日本のアニメの人気はますます増加しており、特に海外での評価は非常に高く、世界各国で文化を超えて親しまれています。しかし、その大人気の裏側には、制作現場の過酷な労働環境や低賃金問題など、様々な課題が潜んでいます。今回は、こうした日本のアニメ業界の現状について詳しく探っていきます。

6. 「先延ばし」に向き合う

福岡女子大学国際文理学部国際教養学科1年

泊 沙也佳

皆さんは何かを先延ばしにした経験はありますか。大学生では、期日に猶予をもって課されたはずのレポートをずるずると後回しにしてしまい、締め切り直前に慌てて仕上げたという話をよく耳にします。先延ばしは短期的には精神的負担を和らげることができるものの、タスクを放棄していることに対する罪悪感を生んだり、仕事の質を低下させたりするなどの悪影響があります。そこで、今回の研修会では先延ばしのタイプや原因、克服するための方法についてご紹介したいと思います。

7. ChatGPTはどのようにして作られたのか。

九州大学工学部航空宇宙学科1年

中村 航

突如としてこの世に現れた生成AI、ChatGPT(Chat Generative Pre-trained Transformer)。彼の性能は凄まじくこの世界に革命を起こし、瞬く間に世界中の人々に浸透しました。今や私たちにとって欠かせない道具の1つとなっています。しかしChatGPTには様々な問題点も孕んでいます。今回はその問題点などにも触れながらこのChatGPTが如何にして創造されたのかについて調べたことを発表させていただきます。

8. 命をつなぐBLS

大分大学医学部医学科1年

西園 仁尊

皆さんはもし道端で人が倒れていたらどうしますか。「救急車を呼ぶ？助けを求める？救急車が来るまで何をしたらいいの？」と、いざそのような場面に遭遇した時にどうすればいいかわからないという方も多いと思います。そこで行うのがBLSです。BLS (Basic Life Support) は一次救命処置と訳され、誰もができる心肺蘇生法のことです。今回の発表で皆さんが心肺停止状態の人に遭遇した時に、その人の命をつなぐことができるようになっていただければと思います。

9. カナダ留学を終えて

九州大学医部医学科1年

八波 りお

9月の1か月間、カナダのビクトリア大学に留学しました。この留学を通して異文化を体験し、新たな視点を得ることができました。また、留学中にカナダの病院で診察を受けた際、日本との違いに驚き、海外の医療制度にも興味を持ちました。帰国後に調査を行った結果、様々な違いが明らかになりました。本発表では、留学を通して学んだことと、日本と海外の医療の比較について発表します。

10. 在日コリアン問題から考える「人権」

福岡教育大学教育学部中等理科学科1年

山口 凌汰

みなさんは「人権」とは何か、考えたことがありますか。私は、大学の授業で学んだ、深刻な在日コリアンの方々への差別について、特に興味を持ったので、自分でより深く調べました。在日コリアンの方々は、ヘイトスピーチなどの差別的言動を受けてきた歴史があります。そこで、今回の研究発表では、その調べた内容を発表し、その問題を通して人権とは何かということを考察していきたいと思っています。

11. 【研究成果発表】 運輸の環境効率性を考慮したグローバルサプライチェーンの脱炭素に向けた再構築

九州大学大学院経済学府経済システム専攻博士課程1年

庄田 朋申

グローバルサプライチェーン(GSC)の国際物品貿易によるCO₂排出量は世界CO₂排出量の23%を占めており、GSC由来CO₂排出削減が急務となっている。GSCの発達による生産と消費の地理的な分離により、GSCの国際海運への依存度が高く、GSCの脱炭素化政策は運輸を取り入れた評価が必要となる。本研究は、GSCの再構築が運輸ネットワークを通じた財のライフサイクルCO₂排出量に与える影響を分析し、運輸の環境効率性を考慮したGSCのCO₂排出削減策を提案する。

12. マイクロチャンネル内における柔らかいビーズの動きと抵抗【ZOOM】

京都大学工学部物理工学科3年

才田 隼輔

私のフランスでの交換留学先でのインターン先で取り組んでいる研究に関連する内容を紹介する。それは、柔らかいビーズが狭いマイクロチャンネル内を流れる際の動きとその抵抗を調べる研究である。この研究は、細胞や粒子が微小な環境でどのように動き、変形するかを理解することを目指しており、バイオメディカル分野での応用が期待されている。また、発表の最後に、長期間海外に留学する際、注意すべきことについて話す。

●令和6年度 関東地区研修会

令和6年度関東地区研修会が12月7日(土)、8日(日)の2日間にわたってホテル・グランドヒル市ヶ谷で行われました。

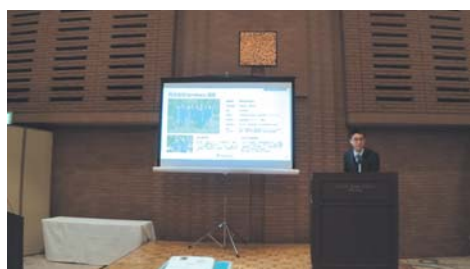
初日の7日は研修会に先立って、今年度で卒業する奨学生3名と当日参加した理事5名で青山霊園の黒田家代々のお墓にお参りした後、研修会場ホテルに向かいました。

研修では、初日が15名、2日目が9名の研究発表を実施。各自、発表10分、質疑応答10分の限られた時間内でしたが、活発な質疑が交わされ中身の濃い研修会となりました。

また、2日の夕刻からは黒田長高総裁ご夫妻の出席のもと、瑞藤会懇親会を研修会に併せて開催しました。総会では、長高様のご挨拶に続いてOBで株式会社YanekaraのCEO松藤圭亮さん(令和5年東京大学大学院卒)による記念講演の後、懇親会へと進み、OBの方々の参加も含めて総勢38名での賑やか、かつ有意義な交流会となりました。

奨学生参加者：関東地区奨学生全員24名(内、ZOOM参加1名)

参加役員：伊達理事長、重藤常務理事、小田部理事(教育指導担当)、安川理事(教育指導担当)、渡邊理事(教育指導担当)、野中理事



研修会に参加しての感想

東京大学工学部航空宇宙工学科3年 方倉 颯馬

12月7日、8日にかけて行われました黒田奨学会の関東地区研修会に参加させていただきましたので、そこで得られた知見、感想等を共有させていただきます。

私自身3度目の研修会であり、2度目の対面開催となりました。多様な方面でご活躍されている奨学生の方々、OB・OGの方々と直接お会いし

て交流を深めることができる有意義な機会となり、文理を問わない多種多様な分野の発表などから、日頃の大学生活では得ることのできない知的刺激を多く受けることができました。

私は「CanSat打ち上げ実証実験」と題して発表をさせていただきましたが、必ずしも工学を専攻されていない方々に向けての発表ということもあり、「わかりやすさ」を意識しての発表構成を心がけました。発表を聞いて得られる外的な知的刺激に加え、自分自身の研究内容を客観的に見つめ直す契機ともなり、改めてこの研修会の有意義さ

を実感いたしました。多くの方に興味を持っていただき、かつ「面白い」と思っただけのような発表を目指していきたいと思います。

続いて、印象に残った奨学生の方々の発表について、一部ではありますが言及させていただきます。

大場さんの発表は、明るく堂々とした口調に加え、発表スライド1枚1枚から工夫が感じられ、非常に説得力溢れるものでした。単調になりがちな歴史の時系列を上手にまとめていらしやり、大変感銘を受けました。大場さんをはじめとして、年々発表スライドのレベルの上昇を実感しております。奨学生の方々の発表の素晴らしい点を積極的に「盗んで」、自身の発表・プレゼン能力の向上に活かしてまいりたいと思いました。

田中さんは1年生ながら、発表にストーリー性があり、ソーシャルビジネスについて考えさせられるような素晴らしい発表でした。ご自身の体験も交えた内容もあり、一層説得力が高まっていたように感じられました。

また、1日目終了後の飲み会や研修会終了後の瑞藤会総会など、食事をともにさせていただく機会もあり、ラフな雰囲気の中で様々な方とお話しし、交流を深めることができました。瑞藤会総会では、黒田長高様、由佳子様とご同席させていただく機会をいただきました。自身が力を入れて取り組んでいることをお伝えさせていただき、改めて気が引き締まる思いとなりました。

研修会を経て、様々な方から多くの刺激を得るとともに、自分自身「もっと頑張ろう」という気持ちになりました。来年度の研修会で、より一層成長した姿をお見せできるよう、日々の研究に励んでまいりたいと思います。

最後になりますが、この研修会開催にあたり、準備・運営に携わってくださった方々に厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

東京大学教養学部文科三類2年 下川 哲史

令和6年12月7、8日に開催された関東地区研修会に参加させていただきました。今回の研修会は、私にとって昨年に続いて二回目の参加となりますが、他の奨学生の方々による、多種多様な分野からの非常に興味深い発表を拝聴することができるとともに、自分自身の発表を通して、プレゼンテーションの技術を研鑽することができるたいへん貴重な機会となりました。私の方からは、特に第1日目の研修会についての感想を述べさせていただきます。

第1日目では、16名の奨学生による発表が行われました。修士以上の方が6名ということなどもありまして、各々の研究分野に関する発表内容は非常に詳細である一方、プレゼンテーションでは、

初学者にもわかりやすいようなやり方で解説していただいたため、研究の内容、プレゼンテーションの方法論ともに、たいへん参考になる発表でした。

特に印象に残った発表としては、慶応法B3の大場雅翔さんの東アジア国際政治に関する発表がありました。発表の内容は、ロシアと北朝鮮の蜜月関係を題材に、東アジア国際政治を論じたもので、ちょうど先日、韓国で尹錫悦大統領によるクーデター未遂事件が発生するといったように、非常にタイムリーな話題で興味を惹かれました。また、プレゼンテーションでは、視覚的にわかりやすいようにアニメーションを多用するなど、発表準備についてたいへん参考になりました。また、あらかじめ質疑応答で予想される質問を発表者側で提示する方法も印象的でした。

次に、私自身の発表についてふりかえらせていただきます。今回の発表は、鎌倉幕府の成立年に関する諸説を、研究史に触れながら解説するといった内容でした。今回の発表で工夫した点として、発表内容の選別というものがありませんでした。昨年の発表では、発表内容として扱う事項が多岐にわたってしまいい、全体的にまとまりのない印象になってしまったという反省がありました。今回の発表では、発表原稿、およびプレゼンテーションの作成段階で、発表に取り上げる内容を絞ることで論点を集約し、発表全体の統一感を演出するよう試みました。昨年の発表の反省を生かしたり、他の奨学生の発表を参考にしたりすることによって、大学の授業や研究活動で求められるプレゼンテーション技術を研鑽できるという、研修会の利点を非常に感じた次第であります。今回の反省点としては、先述の大場さんなどの発表のように視覚的な分かりやすさを重視することと、質疑応答での技術を磨くことが挙げられます。

関東地区研修会は年に一回である分、大学生活一年分の成長を示すことができる機会であると思います。他の奨学生の方々の発表について、その内容、発表技術を自らのものとなるよう取り入れていくとともに、自分自身の学業・研究、および発表技術の向上に向けて、一所懸命に精進していきたいと思っています。

東京大学法学部第2類 (法律プロフェッションコース)3年 小淵 朝陽

12月7日と8日に開催された関東地区研修会に参加しました。今回で3回目の参加となるこの研修会では、学問的にもその他の面でも多くの学びと刺激を得ることができました。ここでは、2日目である8日の研修会の感想を記します。

1日目、準備不足と想像力の欠如で不甲斐ない

発表をしてしまった私は、その失敗を取り返そうと、2日目は発表に積極的に耳を傾け疑問点があれば質問する姿勢で臨みました。しかし、いつものことながら、この研修会は文理を問わない学際的な内容であるため、法学を専攻する私は発表内容を理解するのに苦労しました。「Altermagnet」と呼ばれる新しい磁性体や、CanSatという超小型衛星の打ち上げコンペといった理工系の発表から、恋愛に関する興味深い心理学の発表まで、内容は多岐にわたりました。高校までの知識を総動員し、理解が追いつかない部分はその場で調べたり質問したりしても、発表の半分を理解するので精一杯でした。他方で、このように幅広いテーマの発表が聞けるのも、黒田奨学会の研修会ならではの気がします。日頃、いつもの学部棟で同じ興味を持つ友人たちと共通の法学という学問を修学する私にとって、この研修会は同じ「大学」という機関に所属しながらも異なる関心分野で活躍している学生たちの存在を再認識させる貴重な機会です。勝手ながら、この日は発表を聞きながら、私の教養が増していく錯覚を覚えておりました。また、皆さんの発表には創意工夫が凝らされており、それによって各発表の理解がしやすくなり、かつ私自身の発表ももっと分かりやすく興味深いものになればと反省させられました。

特に印象に残ったのは、「社会貢献」を意識した発表です。庄子さんのポータブルMRIの発表は地域医療への貢献を念頭に置いたものでしたし、田中さんのソーシャルビジネスの発表は、ビジネスと社会貢献をどう結びつけるかというものでした。松尾さんの発表は地方創生の具体的な体験に基づいたもので、明確な貢献のあり方を提示してくれました。こうした奨学生の活動を目の当たりにすると、自分の学びや活動が社会に貢献しているかどうか考えさせられます。そして、最も考えさせられたのが、学生発表後のOB、松藤さんの講演でした。株式会社Yanekaraを通じたエネルギー問題への取り組みや、「地球に住み続ける」というミッションのもと、様々な社会問題に取り組む姿勢に感銘を受けました。

東京大学教養学部理科二類2年 川上 航平

12月8日に行われた関東地区研修会の2日目について、印象に残った発表者を取り上げながら感想を記します。

松田さんは、第三の磁性体として近年注目されているAltermagnetについての発表でした。漏れ磁場がなく、かつスピンの区別できる状態で、応用化が期待されるという内容が非常に興味深かったです。また、学会発表の次の日ということだったようですが、専門的な内容の前に導入を丁寧

にしてくださり、門外漢にもわかりやすかったです。

方倉さんは、Cansatの打ち上げについて、ご自身の実験を交えたお話でした。1回目で上手くいかなかったポイントを修正し、2回目で非常に惜しいところまでリカバリーしたというのはすごいと思いました。また、エンジニアにはイマジネーションが大切だという言葉が印象的でした。さらに、スライドのテンプレートに宇宙関連のものが散りばめられており、見ていて惹きつけられました。

庄子さんの発表は、地域医療をよりよくするという観点からポータブルMRIの必要性を説明していただくことで、初めて聞いた題材にも関わらず身近に感じられました。また、実際にポータブルMRIを作る実験と結果についてもお話しいただき、非常に興味深く思いました。

田中さんは、ソーシャルビジネスについての発表でした。実際の社会課題を最初にあげ、それをソーシャルビジネスによって解決した事例を取り上げるという構成は、興味を惹かれるとともに、とても納得感がありました。

津村さんは、折り紙について熱く語っていただきました。作品の写真もお見せいただき、芸術折り紙の深さを感じられたとともに、ミウラ折りが太陽光パネルの展開に有利ということだけでなく、剛体折り紙や芸術折り紙にもかかわるということが印象的でした。

永松さんの発表は、私たちにとっても非常に身近なテーマである恋愛について発達心理学の観点で説明するものでした。なんとなく聞いたり感じたりしたことがある話から、かなり意外に思った結果まで幅広く示していただき、かつそれぞれを裏付けるデータがあり、とても納得できて面白かったです。

松尾さんは、地方創生についてご自身が土村を訪問した事例を交えながら説明してくださりました。土村の取り組みを紹介していただいて私自身も興味を持ちましたし、地方創生におけるメディアの有効性や地方創生のあるべき姿についても学べました。また、スライドのデザインの工夫もみられ、見ていて楽しかったです。

この日は1年生の発表が多かったですが、皆さん堂々としており、また持ち時間のコントロールが上手だったと思いました。

令和6年度 関東地区研修会・抄録集

1. 第三の磁性体「Altermagnet」について

東京大学大学院工学系研究科修士1年
松田 仁

磁性体は、全体として有限の磁化を持つ強磁性体と、個々の原子は磁化を持つが、結晶全体としては磁化を持たない反強磁性体に大別される。しかし近年、新たな分類である「Altermagnet(交替磁性体)」が欧州のグループより提案され、研究者の注目を大きく集めている。本発表では、Altermagnetの定義や性質、最近の研究例について説明する。また、Altermagnetに関連した私の研究についても、簡単に触れる。

2. Cansat打ち上げ実証実験

東京大学工学部航空宇宙工学科3年
方倉 颯馬

近年、超小型衛星、通称Cansatの需要がますます高まっている。衛星開発入門として、「地球と同様の大気組成をもつ惑星において、着地点からCansatを正確に目的地に誘導すること」をミッションに掲げ、マルチコプター式Cansatを開発した。アメリカのブラック・ロック砂漠で実証実験を行ったので、開発段階や事前試験、実証実験本番について、また一連のCansat開発から得られた教訓などについて発表させていただく。

3. 楽器の発音についての比較

東京理科大学理学部物理学科1年
下田 凜歩

皆さんはオーボエという楽器をご存知でしょうか。私は小学生から高校生までずっと吹奏楽部に所属し、打楽器やユーフォニアムという楽器を経験してきました。また、大学では管弦楽団に入り、新たにオーボエを演奏しています。ひとえに管楽器といってもその音の出る仕組みはさまざま、金管楽器と木管楽器、さらに木管楽器の中でも分類が可能です。今回は、さまざまな楽器の音の出し方やそれに伴う音の違いについて、物理学科に所属する私が物理学的視点から論じていこうと思います。

4. ポータブルMRIの実現

千葉大学工学部総合工学科3年
庄子 綾乃

近年、医療現場で欠かせない画像診断装置の1つにMRIがあります。MRI(磁気共鳴画像法)は、非侵襲的に体内を高精度で可視化する技術として広く利用されています。本発表では、MRIの基本的な仕組みを概説するとともに、そのポータブル化の必要性や、実現に向けた課題を議論します。特にポータブル化において重要となる、永久磁石の配列設計であるハルバツハアレとIOリングの技術について紹介します。

5. ソーシャルビジネスとは何か、その現状と可能性

東京大学文科Ⅱ類1年
田中 琉惺

社会課題を、ビジネスという手段を用いて解決することを目指すソーシャルビジネス(以下SB)。近年、その語自体はよく聞かれるようになったかもしれないが、その意味するところを明確に説明できる人は多くないのではなからうか。この発表では、SBの定義やその本質、また具体的な現状、今後の展開についての展望を発表する。この発表によって皆さんが、SBという、従来とは異なった、社会課題に対する魅力あふれるアプローチについて少しでも理解を深めていただければ幸いである。

6. 折り紙の探求 ～折り鶴から学術・現代アートへ～

東京大学理科Ⅰ類1年
津村 有

折り紙は皆さんご存じの通り、日本の伝統文化の一つとされています。折り紙と聞くと子供の遊びのように思われるかもしれませんが、近年では折り紙は単なる趣味の範疇に留まらず、現代アートの、学術的側面を持つものに進化しています。今回はそのような折り紙の進化の歴史、及び学問的側面を一部紹介させていただき、私なりに考える作品の創作法について発表させていただくことで、皆様に折り紙への興味を抱いていただくことを目標とします。

7. エクソソームの実態と可能性

東京大学理科Ⅰ類1年
仲西 愛貴

私が現在参加させていただいている研究室の星野教授はエクソソーム研究の第一人者です。皆さんはエクソソームとはなにかご存知でしょうか。エクソソームはすべての細胞が産生する小胞であり、かつてはゴミ袋のように考えられていました。近年では研究が進み、新たな細胞間コミュニケーションツールとして注目されています。このエクソソームが実際には体内でどのような働きを持つのか、また星野研のテーマであるがん等の疾患との関わり、そしてその利用可能性についてお話しします。

8. 恋愛に型ってあるの!? つり橋効果って本当にあるの!?

早稲田大学文化構想学部文化構想学科1年
永松 由羅

恋愛というと、十人十色な恋愛のスタイルがあると思います。”恋愛”という、数値では表せないような心の動きも、統計化して表すことで特徴が表れてきて、いろいろな型に分けることができたり、恋愛必勝法といわれる様々な方法の裏づけがされたりと、非常に面白く感じたため、今回この話題を発表することに決めました。現実世界や映画・ドラマの世界に当てはめて考えてみると、とても面白いと思います。

9. 地方創生のリアル

早稲田大学文化構想学部文化構想学科1年
松尾 珠

私は地方創生に興味があり、今夏、石川県大土村にワークキャンプに行ってきました。石川県大土村は住民が一人という限界集落であり、SNS運用や私たちのような若者をボランティアという形で受け入れることで、地域の活性化を目指しています。しかし、開発には多くの問題が伴います。実際に現地を訪れて、地域の方々との交流をしたからこそ知ることができた地方の現状や、現地の方々の考え方から地方創生のあるべき姿について考えました。

公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼

公益財団法人黒田奨学会は、旧筑前藩主・黒田家から寄贈された基金及び不動産の資産運用益はもちろんのこと、奨学生OB・OG、黒田家関係者、当奨学会事業への理解者など多くの皆様からの寄付金により成り立っており、頂いた寄付金は奨学会の基本財産に繰り入れて基本財産の充実を図りながら、その運用益を奨学金に充てております。

令和6年度においてはお陰様で73名の方々から計816,000円のご寄付を頂くことができました。

当奨学会は奨学金を支給するだけでなく、特に援助を必要とする学生への入学準備金や、海外で学びたいという奨学生への海外留学支援金などの援助も行っており、これらの奨学事業には皆様からの浄財が大きく寄与していることは言うまでもありません。

黒田奨学会の理念にご賛同いただき、奨学事業の充実のためにご寄付頂きました皆様には心よりお礼もうしあげます。誠にありがとうございました。

黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍するための投資とお考え頂き、今後も引き続き、寄付金募集へのご理解・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

令和6年度奨学会基金への寄贈者（敬称略、順不同）

令和6年4月1日～令和7年3月31日 （ ）は黒田奨学生OB、OGの卒業年

稲 富 翔 伍 (現奨学生)	今 藤 恵 子	平 地 康 一
稲 富 満 江	今 藤 久 夫	古 田 修 一 (R8卒)
稲 富 嘉 博	佐 田 考 史 (H9卒)	牧 原 康 隆 (S51卒)
井ノ口 功 基 (H28卒)	佐 田 裕 (S46卒)	牧 原 澄 子
井ノ口 正 浩	佐 藤 克 哉 (H24卒)	松 井 優 樹 (R6年卒)
岡 本 順 子 (S43卒)	瀬 口 友 樹 (H29卒)	松 本 凌 佳 (R4年卒)
小田部 裕 子	寺 嶋 秀 司 (S56卒)	山 下 謙
小山田 莉 緒 (R6年卒)	中 村 義 則 (S61卒)	山 田 和 輝 (現奨学生)
小山田 恵 美	中 村 紗 綾 子	山 田 公 彌
菊 池 武 之	野 崎 雄 介 (H10卒)	吉 田 隆 治
菊 池 泰 子	濱 本 恵 美 子	
木 村 菊 子	伴 曜 价	匿名希望者 37名
河 野 進 (S62卒)	平 井 博 子	

令和7年度 黒田奨学会行事予定

(令和7年4月1日現在)

月	日	曜 日	内 容
4月	10	木	4月分奨学金給付
	11	金	「進級を証明できる書類」提出締切 (※2年生以上、締切厳守) 光雲神社春季大祭
5月	9	金	5月分奨学金給付
6月	7	土	(前期) 第1回九州地区研修会
	10	火	6月分奨学金給付
	11	水	第1回定例理事会
	20	金	瑞藤会会報98号発行
	27	金	定時評議員会 (議題：決算報告)
4月～6月			九州・関西・関東地区新入奨学生と現役奨学生との情報交換会
7月	5	土	(前期) 第2回九州地区研修会
	10	木	7月分奨学金給付
8月	2	土	長政公402回忌法要 (崇福寺)
	8	金	8月分奨学金給付
	12	火	事務局夏季休暇 (12日～17日)
8月中旬頃			創立110周年記念講演会、祝賀会
9月	6	土	関西地区研修会 (場所未定)
	10	水	2026年度学部一般募集要項その他書類一式各校発送・HP掲載 前期成績表・報告書・GPA提出 ※9/8受付開始～9/19締切厳守
	10	水	9月分奨学金給付
	17	水	九大・九工大特定枠募集推薦依頼書発送
10月	4	土	(後期) 第1回九州地区研修会・面談
	6	月	光雲神社秋季大祭
	10	金	10月分奨学金給付
11月	8	土	(後期) 第2回九州地区研修会・面談
	10	月	11月分奨学金給付
12月	6	土	関東地区研修会 (場所未定)
	7	日	
	10	水	12月分奨学金給付
	17	水	瑞藤会会報99号発行
	26	金	事務局冬季休暇 (27日～1/5日)
2026 1月	6	火	事務局業務開始日
	9	金	1月分奨学金給付
	16	金	2026年度九大・九工大 大学院特定枠学内申請締切
	30	金	2026年度新奨学生 (一般募集) 願書受付締切 (必着)
2月	10	火	2026年度新奨学生 (一般募集) 書類選考会
	10	火	2月分奨学金給付
	12	木	忠之・光之・治 公法要 (東長寺) 忠之公374回忌
	13	金	2026年度新奨学生 (一般募集) 書類選考結果発送
	27	金	2026年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
	28	土	2026年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
3月	1	日	2026年度新奨学生 (特定枠募集) 面接選考会
	2	月	第2回定例理事会 (議題：奨学生採用内定、2026年度予算)
	3	火	2026年度新奨学生 (一般募集、特定枠募集) 採用者HP掲載
	10	火	3月分奨学金給付
	13	金	後期成績表・報告書・GPA提出 ※3/13受付開始～3/27締切厳守
	19	木	如水公423回忌法要 (崇福寺)
	20	金/祝	春分の日 2026年度奨学生入会式 2025年度卒業記念会・卒業祝賀会

編集後記

令和7年度瑞藤会会報第98号が完成しましたのでお届けいたします。ご寄稿いただいた皆様には、お忙しい中ご協力を賜り、この場をお借りしてお礼申し上げます。

私事ですが、本年4月より、伊達理事長の後任として理事長職を拝命いたしました。黒田奨学会のOBでもない私が、歴史と伝統のある当財団の理事長を勤めるのは心もとないと思われる方も多いかと思いますが、微力ながら、次世代を担う有為な人材を支援するため尽力してまいり所存ですので、何卒、今後ともご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます

今年も35名（学部生26名と特定枠大学院生9名）の新奨学生を迎え、新年度がスタートしました。

特に、学部生は入学から2か月が経過し、ようやく生活も慣れてきた頃でしょう。そんな新人さんに、早く黒田奨学生として馴染んでもらおうと、先輩奨学生との交流、懇親会を5月末から6月初めにかけて東京、大阪、福岡でそれぞれ開催しました。参加した新奨学生達は、入会式での緊張した表情に比べて、明るく元気な顔を見せてくれて安心しました。

今年は、11月に創立110年を迎えるのを機に、大々的ではないですが、記念事業をいくつか企画しています。その1つで、記念紀要を作成しますので、瑞藤会会員のみなさんから寄稿していただこうと、募集案内を本誌に同封しております。奮って応募いただきますようお願いいたします。

(重藤)

瑞藤会会報 第98号

発行日 令和7年6月20日

発 行 公益財団法人 黒田奨学会
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目2-11
富士ビル赤坂7階E号室
TEL 092-712-0597 FAX 092-714-7304
E-mail:office@kuroda-s.or.jp
:info@kuroda-s.or.jp (奨学生用)
<http://www.kuroda-s.or.jp>

責任者 重藤 健士

印刷所 誠文社印刷